

## — 施策の展開 —

## 施策の展開

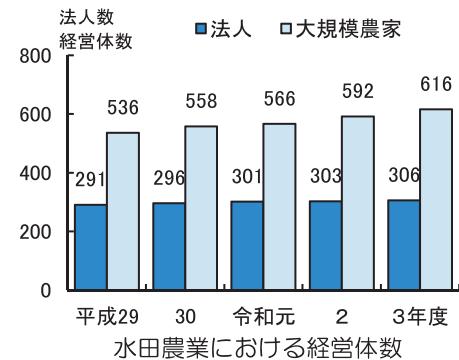
### 1 マーケットインの視点で生産力を強化

#### (1) 経営資源の集約化により担い手の規模を拡大

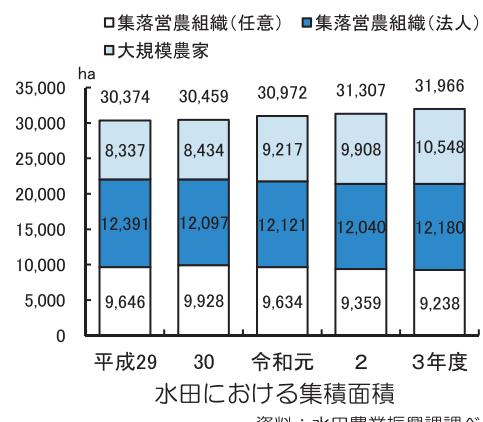
##### (農地の担い手への集積や大区画化を推進)

- ・県では、水田農業の持続的発展のため、農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化を推進しています。令和3年度は、畦畔除去による農地の大区画化や、担い手同士の農地交換による集約化の取組を支援するとともに、農地中間管理機構に、新たに「農地利用調整戦略室」を設置し、市町村を越えた農地の利用調整を行うなど、担い手の規模拡大を支援しました。
- ・これらの結果、担い手である大規模農家と集落営農組織への集積面積は31,966haとなり、本県の水田面積\*に占める集積率は前年度から2ポイント増の67%となりました。また、法人化した集落営農組織は3増の306法人、10ha以上の大規模農家は24増の616経営体となりました。
- ・今後も担い手の育成と併せ、担い手への農地集積・集約化や大区画化を推進します。

\*水田面積：土地利用型作物（米、麦、大豆）が生産されている水田の面積で、県内は約48,000ha。



資料：水田農業振興課調べ



資料：水田農業振興課調べ

## トピック

### ○ 農地中間管理機構に、新たに「農地利用調整戦略室」を設置

- ・県は、農地中間管理機構をはじめ、市町村や農業委員会、農協、土地改良区といった関係機関と連携を図りながら、担い手の農地確保を支援しています。
- ・規模拡大を志向する農家や新規就農者といった担い手は、農地の確保に苦慮していることから、市町村を越えた農地の利用調整を進めることを目的として、農地中間管理機構内に、新たに「農地利用調整戦略室」を設置しました。
- ・戦略室では、担い手がまとまった農地を効率的に利用できるよう、地域の担い手に働きかけを行い、区画整形や暗渠排水といった耕作条件を改善する農地の整備を支援しています。

#### 農地利用調整戦略室の業務概要

##### 目的

- ・被災農家がリスク分散できる農地の確保
- ・生産効率の高い農業経営を実現するための農地の集積・集約化や大区画化
- ・新規就農者の農地の確保

##### 内容

- ・農地の借受けや買入れを実施
- ・区画整形や暗渠排水といった整備を実施
- ・新たな担い手に斡旋、貸付けや売渡しを実施

##### 体制

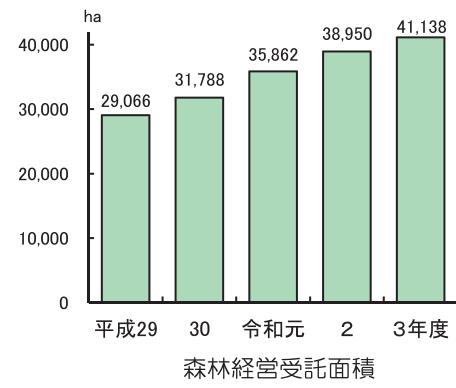
- ・県派遣職員5人、機構職員1人

## (経営体への森林の集約化で効率的な林業経営が進む)

- ・県では、効率的で安定的な林業経営が行われるよう、小規模で分散して所有されている森林を、森林組合をはじめとする林業経営体に集約化する、経営受託を促進しています。
- ・令和3年度は、森林所有者への意向調査の結果を活用しながら、市町村や森林組合に対して経営受託の取組を促進した結果、受託面積は、前年度に比べ2,188ha 増の41,138haとなりました。また、集約化された森林の管理者となる「意欲と能力のある林業経営者※」は、3年度までに22事業者となっています。
- ・今後も、効率的な林業経営に向け、林業経営体への森林の集約化を推進します。

※意欲と能力のある林業経営者：森林経営管理制度※に基づき、市町村から委託された森林の経営管理の実施能力を有する林業経営体。

※森林経営管理制度：経営管理が不十分な森林を、市町村が仲介役となって「意欲と能力のある林業経営者」に集積・集約するとともに、林業経営に適さない森林については、市町村が管理する制度。



資料：林業振興課調べ

意欲と能力のある林業経営者の認定者数  
単位：者

	令和元	2	3年度
森林組合	7	7	7
民間事業体	10	15	15
合計	17	22	22

資料：林業振興課調べ

## (2) 品質向上や安定生産により供給を拡大

### (「秋王」の生産量が過去最高を記録)

- ・県育成品種のかき「秋王」は、大玉でサクサクした食感が特長で、市場評価が高く、高単価で販売されています。
- ・県では、「秋王」の生産拡大に向けて、結実が安定する技術の普及や、収量が高い生産者の園地での研修会を実施しています。
- ・この結果、令和3年度の生産量は、前年と比べ90%増の110tとなり、過去最高を更新しました。
- ・今後も、高品質な「秋王」の生産拡大につながる技術の普及を図ります。



「秋王」



収量が高い園での研修会

### (コロナ禍に対応した畜産経営の基盤強化を推進)

- ・長引くコロナ禍により、畜産物の需要が低迷するなか、家畜の餌となる輸入牧草の価格が高騰し、畜産農家の経営に影響を及ぼしています。
- ・このため、県では、令和3年度、牧草の安定確保に向け、自給飼料の生産に必要となる機械の導入を支援したほか、和牛生産者の経営を安定させるため、子牛の導入を支援しました。
- ・併せて、労働力不足にも対応するため、自動給餌機や個体管理システムといったスマート農業機器の導入による作業の省力化を支援しました。
- ・今後も、畜産経営の基盤が強化されるよう、低コスト化や生産性向上に向けた取組を進めていきます。



自給飼料生産機械（コンビラップ）



個体管理システムを装着した肉用牛  
(左下：個体センサー、右上：受信機)

### (ICTを活用し、八女産材で住宅21棟を建築)

- ・県では、マーケットインによる木材生産の実現に向け、令和元年度から、ICTを活用し、木材の生産から加工流通の全ての段階で需給情報を共有する取組を支援しています。
- ・3年度は、モデル地区の八女地域で、工務店が求める製品の規格や在庫量といった情報を生産者や木材加工業者がクラウド上で共有し、その情報に基づく計画的な伐採と製品加工を、実際の住宅建築へとつなげる取組を支援しました。
- ・その結果、八女地域の木材を中心に使用した住宅が、県内に21棟建築されました。
- ・今後も、この取組を推進・普及することで、需要に応じた木材生産を推進していきます。



八女産材を使用した住宅

## (ノリ養殖に必要な情報を一括提供し、安定生産を推進)

- ・県では、海況の変化に応じてノリ養殖管理を適切に行えるよう、有明海の水温や潮位といった海況情報を観測し、漁業者に提供するウェブサイト「福岡県海況情報提供システム『うみえる福岡』」を運用しています。
- ・令和3年度からは、情報の提供を30分間隔から10分間隔に短縮するとともに、気象台の予報や栄養塩情報を一括して提供できるよう機能を拡充し、漁業者からは「スマートフォンで、栄養塩の情報を地図上で見られるようになり、わかりやすくなった」との声が寄せられています。
- ・今後も、漁業者が必要とする情報の発信に努め、ノリ養殖の安定生産を支援していきます。



地図上に表示された栄養塩情報

## (一次加工への取組を支援し、水産物の安定供給を強化)

- ・<sup>しけ</sup>県では、時化※や漁獲の状況に左右されず、安定して水産物を供給できるよう、一次加工に取り組む漁協に対し、凍結機や殺菌水生成装置といった機器の整備を支援しています。
- ・令和3年度は、冷凍機器の整備を支援し、骨切りハモをはじめとする県産水産物の一次加工品が商品化・販売されました。
- ・今後も、県産水産物の供給体制の強化を推進します。

※時化：暴風雨によって海上が荒れること。



ハモ（上）と  
商品化された冷凍骨切りハモ（下）

### (ほ場整備を契機とした農地集積で生産力を強化)

- ・県では、不整形で小さいほ場を集約し大区画にする農地の整備と、農道や用水路・排水路の整備を一体的に実施するほ場整備による生産基盤の強化とともに、担い手への農地集積を進めています。
- ・行橋市の辻垣・道場寺・高瀬地区（35.6ha）では、令和3年度にほ場整備が完了し、大型機械を導入した省力化・低コスト化や農地の排水性の向上が実現しました。
- ・また、ほ場整備を契機に、農地中間管理事業を活用して、地区の7割の農地を担い手に集積しました。
- ・今後も、ほ場整備と農地集積を推進し、生産力の強化を図ります。



ほ場整備前（上）と整備後（下）

### (林道や森林作業道の整備延長は5,565km)

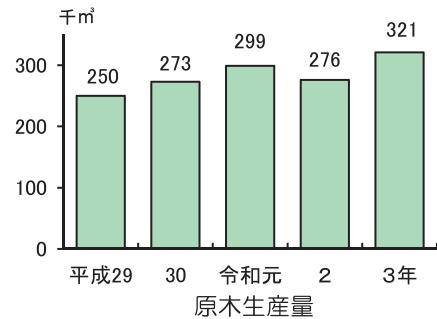
- ・県では、木材生産と森林整備を効率的に行うため、基幹となる林道とその支線となる森林作業道の整備を進めています。
- ・令和3年度は、新たに、林道が13路線で5km、森林作業道が230路線で243km整備され、県内における路線全体の整備延長は5,565kmとなりました。
- ・今後も、森林の適切な整備・保全や、木材の持続的・安定的な生産に向け、林道と森林作業道の整備に取り組みます。



## (県産木材の生産量は直近5年で最高の321千m<sup>3</sup>)

- ・県では、県産木材の供給力強化とともに、森林資源の循環利用を図るために、主伐<sup>\*</sup>を推進しています。
- ・令和3年度は、主伐経費への助成や高性能林業機械の導入支援による主伐の推進に加え、輸入木材の供給減少で国産材の需要が高まったことにより主伐が積極的に実施され、原木生産量は、直近5年で最高の321千m<sup>3</sup>になりました。
- ・今後も主伐を推進し、県産木材の供給力強化と森林資源の循環利用を進めていきます。

※主伐：一定の林齢に生育した立木を材木として販売するために伐採すること。



資料：林業振興課調べ



主伐による原木生産の現場

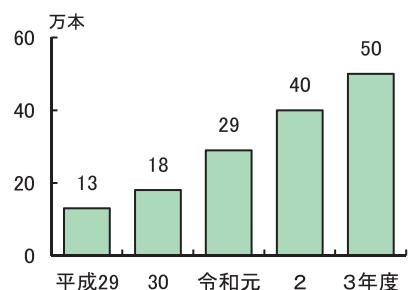
## (コンテナ苗の生産拡大により再造林を推進)

- ・森林資源の循環利用を図るために、主伐と併せ、伐採後の再造林の推進が重要です。
- ・このため、県では、苗木生産者に対して、年間を通じて植栽可能なコンテナ苗<sup>\*</sup>を生産するための施設の導入支援や生産技術研修を行い、生産拡大を進めています。
- ・この結果、令和3年度のコンテナ苗の生産量は、前年度に比べ10万本多い50万本まで増加しました。
- ・今後も、需要に応じた苗木の安定的な供給を図り、再造林を推進していきます。

※コンテナ苗：根鉢があるため、これまでの裸苗よりも活着率が高いことから、年間を通じて植栽することが可能な苗。



スギのコンテナ苗

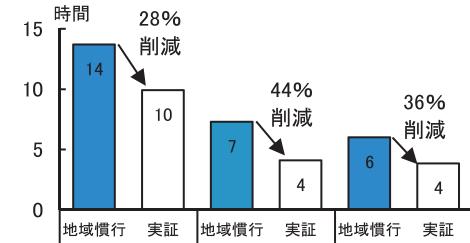


資料：林業振興課調べ

### (3) 低コスト化を促進

#### (スマート農業技術の一貫体系により水田農業の労働時間が削減)

- ・県では、令和2年度から3年度にかけて、国の「スマート農業技術の実証・開発プロジェクト」に参画し、スマート農業技術を活用した水田農業の作業体系の実証に取り組みました。
- ・この取組により、地域における一般的な栽培方法に比べて、労働時間は、水稻で28%、小麦で44%、大豆で36%削減できることが実証されました。また、無人口ボットトラクタと自動操舵システムを活用することで、経験の浅い生産者でも熟練の生産者並みの機械作業ができることも実証されました。
- ・今後は、今回の成果を関係機関で共有するとともに、スマート農業機械の使用方法の習得や、機械から得られるデータの活用に向けた研修会により、スマート農業機械の導入による作業の効率化・省力化を推進します。



10aあたりの労働時間  
資料：水田農業振興課調べ



無人口ボットトラクタと  
自動操舵システムの活用

#### (自動環境制御機器の導入支援により、なすの収量が15%増加)

- ・県では、ハウス内の温度や湿度、二酸化炭素濃度を遠隔監視できる環境測定機器や、ハウス内環境を作物にとって最適に保つ自動環境制御機器の導入を支援することで、スマート農業の実現を推進しています。
- ・令和3年度は、野菜や花きの生産者13戸で自動環境制御機器が導入され、なすでは、機器を導入した生産者グループの平均収量が、地域の平均収量と比べて15%増加しました。
- ・今後も、スマート農業の取組を進めることで、収量増大や労働時間の削減による園芸農家の所得向上を支援していきます。



ハウス内に設置された環境測定機器

## (共同利用施設の整備により野菜の集出荷の効率が向上)

- ・県では、園芸作物の集出荷の効率化を図るため、集荷施設の集約や、ロボットを活用した出荷作業の省力化を支援しています。
- ・令和3年度は、JAみなみ筑後において、セルリーやきゅうりの集出荷施設を1か所に集約するとともに、ロボットパレタイザー※を導入し、出荷作業の省力化を図りました。
- ・今後も、集出荷施設の機能強化により、県産農産物の更なる競争力強化を図っていきます。

※ロボットパレタイザー：荷物をパレットに配置・積載するロボット。



整備された集荷施設

## (木材生産の作業システムを改善し、生産性を向上)

- ・県では、木材の生産現場における低コスト化や生産性の向上に向け、伐採から搬出までの一連の作業における機械と人の効率的な組み合わせを現地で学ぶ「作業システム検討会」を開催しています。
- ・令和3年12月、みやこ町で開催した検討会では、作業システムの優良事例を見学したほか、参加者同士での意見交換を実施しました。参加者からは、「他社の作業システムを学べて参考になった」、「自社の作業システムを見直したい」といった声が聞かれました。
- ・今後も、効率的な木材生産に向けた取組を実施していきます。



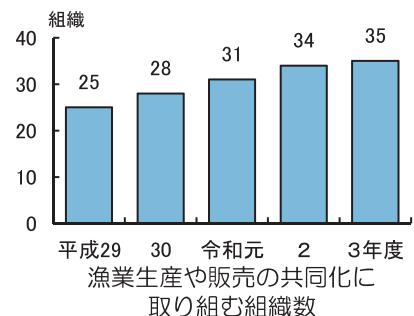
作業システムの優良事例の見学

## (漁業生産や販売の共同化を支援し、低コスト化を促進)

- ・県では、ノリ養殖の協業化施設の整備やまき網漁業の操業の共同化によるコスト削減を促進しています。
- ・令和3年度は、柳川市の沖端漁協において、ノリの加工コスト削減のための共同加工施設を整備し、ノリ加工や漁業生産、販売の共同化に取り組む組織は35組織となりました。
- ・今後も、漁業生産や販売の共同化により、低コスト化を促進していきます。



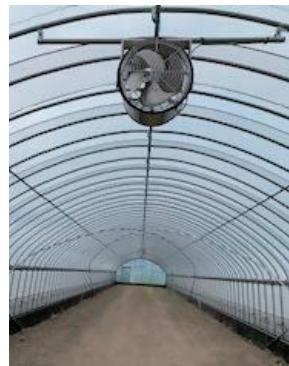
沖端ノリ共同加工施設



資料：水産振興課調べ

### (施設園芸の省エネルギー化を促進)

- ・県では、施設ハウスの暖房に必要な燃油の価格高騰に対し、燃油使用量の削減につながる施設の省エネルギー化に向けた取組を支援しています。
- ・令和3年度は、ハウス内の保温性を高める内張カーテン施設や、温度センサーと連動した自動換気装置、ハウス内の温度ムラを軽減する循環扇の導入を支援しました。この結果、これらの設備を導入した園芸農家では、燃油使用量を10%以上削減することができました。
- ・今後も、燃油削減や省エネルギー化に効果のある設備の導入を支援していきます。



循環扇を整備したハウス

### (漁船の燃費向上により、経営基盤を強化)

- ・漁業は、生産コストに占める燃油代の割合が高いことから、漁船の燃油使用料を削減することが漁業における経営基盤強化のためには重要です。
- ・県では、漁船の燃費向上のため、船底部に付着したカキや海藻の清掃に必要な漁船まき揚げ施設の整備を支援しており、令和3年度は県内5か所で実施しました。
- ・今後も、燃費向上のための施設整備を支援し、漁業者の経営基盤強化を図ります。



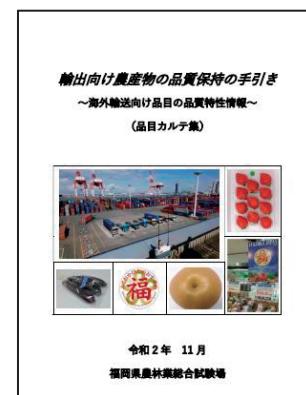
整備された漁船まき揚げ施設

#### (4) 県独自品種・新技術の開発を加速

##### (「輸出向け農産物の品質保持の手引き」を作成し、輸出を促進)

- 農産物の輸出には、航空便に比べて輸送経費が安価な船便を用いる場合が多く、多品目混載※や長時間の輸送による品質低下が課題となっていました。
- このため、県では品目や品種別の最適な輸送温度や、品質低下の要因となるエチレンガスの発生量といった特性調査を行い、「輸出向け農産物の品質保持の手引き」を作成しました。
- この手引きは、輸出事業者や輸出に取り組む産地で活用されており、「最適な輸送条件が分かりやすく、混載品目の選定の参考になる」と好評です。
- 今後も、輸出拡大につながる調査や技術の開発に取り組みます。

※多品目混載：複数の品目を一つのコンテナで輸送すること。



イチゴ「あまおう」	
最適輸送温度	0°C
輸送可能期間	10日間
低温障害	無
エチレン発生	無
エチレン感受性	無
留意点	カビが発生しやすいため、販売中も低温に保つ必要があります

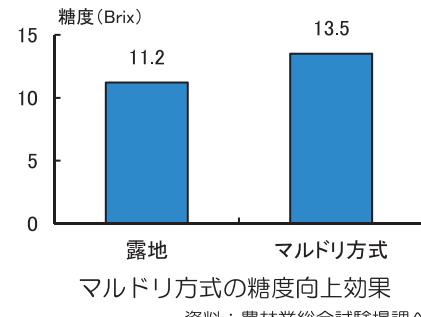
輸送特性情報（まとめ・3月収穫果実）

時 期	貯 蔵 温 度	貯 藏 性 能	呼 吸 量 (mg kg⁻¹ h⁻¹)	エ チ レ ン 発 生 量 (ppm)	エ チ レ ン 感 受 性
3	0°C	無	○ ○	5.2	0.0 無 無
5	5°C	無	○ ×	17.1	0.0 無 無
10	10°C	無	△ ×	34.4	0.0 無 無

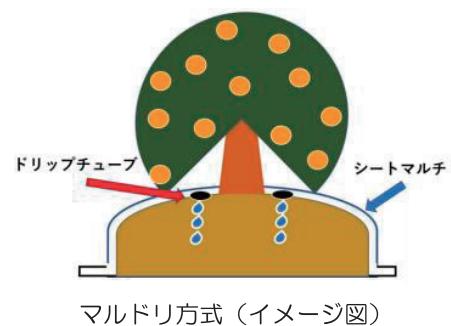
輸出向け農産物の品質保持の手引き

##### (「北原早生」の高品質安定生産技術を確立)

- みかんは、果実が肥大する時期に、乾燥状態が続くと糖度が上昇する特性があります。この特性を活かし、更に糖度を上げるために、高くした畠をシートマルチで覆い、雨による影響を抑え、必要な水分や肥料は点滴かん水（ドリップ）で供給する「周年マルチ点滴灌水同時施肥法（マルドリ方式）」が導入されています。しかし、優良品種である「北原早生」では、十分に糖度が上昇しにくい課題がありました。
- そのため、県では、シートマルチで覆う時期を、これまでより一ヶ月早い6月から開始し、8月上旬まで乾燥状態を続けるとともに、糖度が9度以上になつたことを確認した後、かん水を開始することで、収穫時の糖度が12度を超える技術を確立しました。
- この技術が普及することで、高品質な「北原早生」の生産拡大が期待されます。



資料：農林業総合試験場調べ

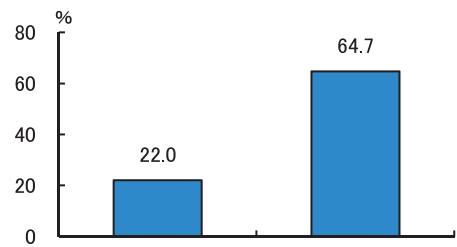


マルドリ方式（イメージ図）

## (「秋王」の着果率向上のための技術の普及が進む)

- ・県育成品種のかき「秋王」は、大玉でサクサクとした食感が特長の甘柿で、市場評価が高く、高単価で販売されています。
- ・一方で、着果が不安定なことが課題だったことから、県では、「秋王」の環状はく皮※処理技術を確立し、普及に取り組んできました。令和3年度までの処理実施面積は「秋王」栽培面積全体の約5割まで拡大し、3年度に「秋王」生産量が過去最高を記録した一因となりました。
- ・今後も、収量の向上をはじめとした新技術の開発・普及に取り組み、県産農産物の安定生産を推進します。

※環状はく皮：ナイフで、樹の根元の樹皮を薄く剥ぐことで、葉で光合成された養分が一時的に根に移行せず、果実に転流、蓄積することで落果を防止する技術。



「秋王」の着果率  
資料：農林業総合試験場調べ

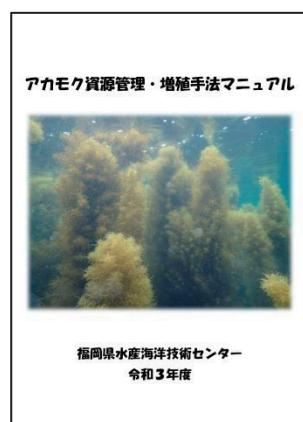


環状はく皮処理

## (アカモクの安定生産に向けた資源管理・増殖技術を開発)

- ・筑前海と豊前海に分布する大型の海藻アカモクは、近年、健康食品としての需要が高まり、道の駅や直販所のほか、大手スーパーでも販売される人気商品となっています。
- ・一方で、過剰な漁獲は、資源の減少につながる恐れがあることから、県では、アカモクの資源管理及び増殖の技術開発に取り組んでいます。
- ・令和3年度は、アカモクが生えていない場所に投石と母藻の投入※を行うことで、新たなアカモクの漁場をつくる技術を実証するとともに、母藻の投入や収穫する時期・部位をまとめた「アカモク資源管理・増殖手法マニュアル」を作成しました。
- ・今後は、漁業者に対し、このマニュアルを活用したアカモクの資源管理と増殖技術の普及・指導を行っていきます。

※母藻の投入：タネをまくために、成熟したアカモクを海に投入すること。



### 母藻投入の方法

#### タネまきの方法

時期：アカモクが成熟する2～5月頃  
(\*触って「ぬめり」があれば成熟しています。)  
場所：潮どおしと透明度が良く、波があたらない場所  
岩盤や転石など、アカモクが付く基質のある場所  
方法：石を入れた網袋に雌雄のアカモクを差しこみ、  
海中へ投入（2m間隔で）



作成したマニュアル

## (5) 水産資源の持続的な利用を推進

### (海域の特色に合わせた漁場づくりを実施)

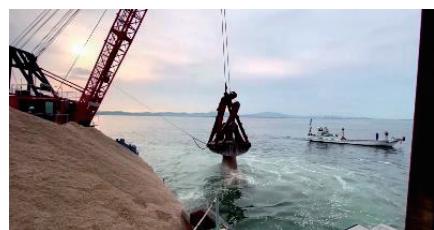
- ・水産資源を増やすためには、海域の環境や生息する生物に応じた漁場づくりが必要です。
- ・そこで、令和3年度、県では、筑前海でマダイやマアジの魚礁<sup>※1</sup>の設置、有明海で底質改善やアサリをはじめとする二枚貝のための覆砂<sup>※2</sup>事業を実施しました。また、豊前海でエビやカニ類のための覆砂や、カサゴやメバルの魚礁を整備しました。
- ・今後も、各海域の特性に合わせた漁場づくりを進めています。

※1 魚礁：構造物を海底に設置し、魚の隠れ場や餌となる生物が集まる場所をつくり、水産生物の増加を図るもの。

※2 覆砂：底質が悪化した干潟に砂を撒いて底質環境を改善し、干潟に生息する二枚貝等の資源の増加を図るもの。



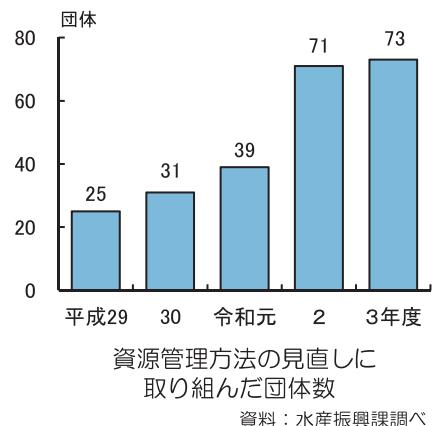
魚礁の設置作業（筑前海区）



覆砂作業（有明海区）

### (資源管理方法の見直しに取り組む団体が着実に増加)

- ・水産資源の持続的な利用を図るため、漁業者は、自主的な資源管理に取り組んでいますが、水産資源は漁獲や漁場環境により変動することから、その状況に応じて資源管理の方法の見直しが必要です。
- ・令和3年度は、県の指導のもと、新たに2団体が休漁日の設定や小型魚の再放流について見直しを実施し、資源管理の取組が着実に拡大しています。
- ・今後も、水産資源を持続的に利用できるよう、漁業者への指導を行っていきます。

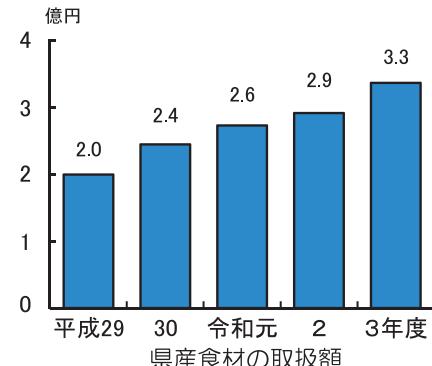


## 2 「選ばれる福岡県」に向けてブランド力を強化し、販売を推進

### (1) 「福岡の食」の一体的な販売・消費を促進――

#### (県産食材の取扱額が3億円を突破)

- ・県では、東京と大阪に「福岡よかもん・よかとこプロモーションセンター」を設置し、首都圏及び関西圏のホテルやレストランへ県産農林水産物をPRする取組を実施しています。
- ・令和3年度は、県産食材の輸送体制の確保に向けた取組や、中食・外食事業者のニーズを産地にフィードバックして商品改良を促す取組を実施しました。加えて、バイヤーの産地招へいや食品サンプルの提供により、県産食材を使ったメニューを提供する「福岡フェア」の開催を外食事業者に働きかけました。
- ・こうした取組の結果、継続取引が拡大したほか、全国的に有名な高級日本料理店で1月中旬から2月に「福岡フェア」が開催されたことなどにより、県産食材の取扱高は前年度から15%増の、約3.3億円となりました。今後も県産食材の更なる販売拡大を目指し、外食・中食事業者への販売促進活動を進めています。



資料：福岡の食販売促進課調べ



高級日本料理店での「福岡フェア」で  
提供されたメニュー

#### (アプリやフェアによる県産酒の消費促進で県内の酒蔵を支援)

- ・県では、コロナ禍で減少した県産酒の需要回復に向け、令和2年度から県産酒を提供する飲食店を「福岡の地酒・焼酎応援の店※」として認定するとともに、応援の店を紹介するアプリの運営や割引クーポンの発行、応援の店でのフェア開催を実施しています。
- ・さらに3年度は、酒づくりに係る県産の原材料費を助成することにより、県内酒蔵のみならず、原材料となる県産酒米や麦を生産する農家の支援にもつなげました。
- ・今後も、応援の店の活用やアプリでの情報発信を通じて、更なる県産酒の認知度向上と需要拡大に努めます。

※「福岡の地酒・焼酎応援の店」：4年3月末現在で281店舗を認定。



アプリのトップ画面  
(イメージ)



「地酒・焼酎フェア」チラシ

## (コロナ禍に対応してオンライン商談専用サイトを開設)

- ・県は、コロナ禍においても県産農林水産物の販売を促進するため、産地とバイヤーがオンラインで商談ができる専用サイト「O I S A (オイサ)」を令和3年10月に開設しました。
- ・このサイトでは、産地側は販売する食材の情報を、産地側・バイヤー側の双方が取引条件を登録することとなっており、予め条件がわかるためスムーズな商談が可能です。
- ・また、サイトに登録する産地と首都圏や関西圏のバイヤーが参加するオンライン商談会を、3年11月と4年2月に開催し、19件の商談が成立しました。この商談会をきっかけに、首都圏ホテルのバイヤーが産地を訪問し、2か月にわたる「福岡フェア」開催に結びつきました。
- ・今後も、県産農林水産物の販売促進に向け、オンライン商談会を活用した取組を推進します。



商談用サイト「O I S A」  
(トップページ)



ホテルのバイヤーによる  
産地視察

## (県産水産物の販売ウェブサイト「じざかなびプラス」を開設)

- ・コロナ禍でも家庭向けの水産物の需要が堅調なことから、県では、令和3年7月、県内の漁協や加工業者の商品を紹介するウェブサイト「じざかなびプラス\*」を新たに開設しました。
- ・このサイトでは、急速冷凍された鮮度の高いケンサキイカをはじめとした202商品を閲覧・検索できるほか、生産者や製造工場の紹介、地魚レシピを掲載し、県産水産物の魅力を広く発信しています。
- ・今後も、サイトを活用したPRにより、県産水産物の販売を促進します。

\* 「じざかなびプラス」のURL：  
<https://jizakanavi-plus.jp/>



県産水産物紹介サイト  
'じざかなびプラス'

## (2) 県産農林水産物のブランド力を強化

### (福岡県オリジナル品種を中心に県産農林水産物をPR)

- ・県では、県産農林水産物のブランド化を進めるため、イベントへの出展や販売会の開催によるPRを実施しています。
- ・令和3年度は、北九州市で開催された「世界体操・新体操選手権」への出展や、首都圏、関西圏での販売会を開催し、県オリジナル品種のみかん「早味かん」やかき「秋王」をはじめ、ケンサキイカ「一本槍」、「博多和牛」といったブランド農林水産物をPRしました。
- ・会場では「福岡うまかもん大使」が丁寧に商品の説明をしながら販売し、消費者からは『『あまおう』以外にも福岡の食材を知ることができて嬉しい』、「今後も見かけたら是非購入したい」といった声が寄せられ、県内外での認知度向上につながりました。
- ・今後も、様々な機会を活用し、県産農林水産物の認知度向上や消費拡大に取り組んでいきます。

ブランド化を達成した品目数

年度	ブランド品目	累計
平成24	あまおう、夢つくし、博多方能ねぎ	3
25	雪姫	4
26	福岡の八女茶、ラー麦	6
27	元気つくし	7
28	とよみつひめ、博多なす、はかた地どり	10
29	博多和牛、福岡有明のり	12
30	はかた一番どり	13
令和元	豊前海一粒かき、糸島カキ	15



東京での販売会

### (旬の県産果実を使ったスイーツが首都圏のカフェで好評)

- ・県では、県産果実の魅力を様々な方法でPRしています。
- ・令和3年度は、首都圏のカフェにおいて、県が育成した、いちじく「とよみつひめ」や、かき「秋王」をはじめ、みかんやぶどうといった6種類の県産果実を使用したスイーツを販売するフェアを実施しました。
- ・フェアでは、6月から12月まで切れ目なく、旬の県産果実を使用したスイーツが提供され、合計7,000食以上を売り上げ、好評を得ました。
- ・今後も、こうした取組により、県産果実の魅力を発信し、ブランド力を強化していきます。

#### トピック

##### ○ 八女伝統本玉露を使った「八女玉露のテリーヌ」が販売を開始

- ・「福岡の八女茶」のブランド力強化の取組の一環として、福岡を代表する洋菓子店2店舗と連携し、八女伝統本玉露をふんだんに使った「八女玉露のテリーヌ」を開発しました。
- ・令和3年10月から販売が開始され、好調な売れ行きとなっています。



県産果実を使用したスイーツ



八女玉露のテリーヌ

### (「福岡の八女茶」ロゴマークを活用して、高級茶ブランドをPR)

- ・県では、「福岡の八女茶」の認知度を国内外で向上させるため、ロゴマークを活用したPR活動を展開しています。
- ・令和3年度は、県内7社の茶商と21社のバイヤーを集め、「『福岡の八女茶』プレミアム商談サロン」を開催しました。商談サロンでは、煎茶や玉露、和紅茶といった様々な八女茶とこれに合う料理と一緒に提案する「ティーペアリング」を行うとともに、「福岡の八女茶」ロゴマークに込められた八女茶の伝統や产地の歴史を併せて紹介し、八女茶の魅力をPRしました。
- ・参加したバイヤーからは、「ロゴマークを通じて八女茶の魅力がさらに理解できたうえ、茶種の豊富さが伝わった」、「『福岡の八女茶』を商材として検討したい」といった意見が聞かれました。
- ・今後も、首都圏や海外でロゴマークを活用したPRを行い、「福岡の八女茶」の更なるブランド力の強化を図ります。



「福岡の八女茶」ロゴマーク



「福岡の八女茶」ティーペアリング

### (販売キャンペーンで県産花きをPR)

- ・新型コロナウイルスの影響による、ブライダルの自粛や葬儀の規模縮小で、県産花きの需要は減少しました。このため県では、令和3年度、県庁ロビーや公共施設での飾花を実施するとともに、家庭での花の消費促進に向けて、「ふくおかの花」販売キャンペーンを行いました。
- ・キャンペーンには、県内の花屋延べ406店舗が参加し、「福岡県産」と表示した特別なPOPの掲示をはじめとする販促活動を実施しました。
- ・キャンペーンに参加した花屋からは、「県産をPRすることで、お客様との会話が弾み、購入促進につながった」、「すぐに持ち帰りができる、家に飾りやすいミニブーケがお客様に喜ばれた」といった声が聞かれました。
- ・今後も、こうした取組により、県産花きの家庭での消費定着を促進していきます。

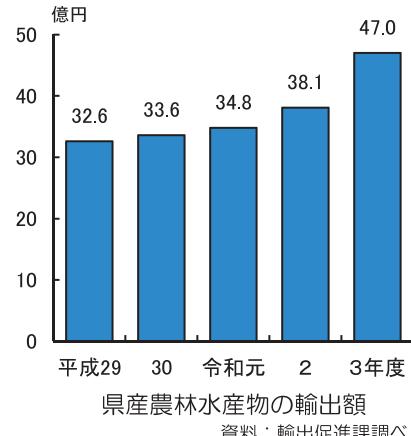


「ふくおかの花」  
販売キャンペーン

### (3) 県産農林水産物の輸出を拡大

#### (農林水産物の輸出額が47億円で過去最高)

- ・県では、県産農林水産物の海外への販路拡大を図るため、販売促進フェアの開催や商談会への出展支援に加え、輸出先国の規制に対応した生産体制の構築に取り組んでいます。
- ・令和3年度は、香港、シンガポールをはじめとする6つの国と地域の量販店や飲食店で、合計28回のフェアを開催するとともに、現地で人気のインフルエンサーや販売店舗のSNSを活用し、フェアの情報や県産農林水産物の魅力を発信しました。
- ・これらの取組や巣ごもり需要で量販店向け販売が増加した結果、令和3年度は、「あまおう」や県産酒の輸出が伸び、県産農林水産物の輸出額は前年に比べ約23%、8.9億円増加の47億円となり、過去最高を更新しました。
- ・今後も、販路開拓や輸出に取り組む産地づくりを進め、輸出を拡大していきます。



資料：輸出促進課調べ



香港のインフルエンサーが「あまおう」をPR

#### (「博多万能ねぎ」の定期輸出が実現)

- ・コロナ禍に対応した県産農林水産物の輸出拡大の取組として、県ではインターネットで産地と海外バイヤーをつなぐオンライン商談会を開催しています。
- ・令和3年度は、この商談会によりJA筑前あさくらと日系量販店で「博多万能ねぎ」の年間取引が成立し、11月からシンガポールとマレーシアに輸出されています。これは、事前に実施した船便での輸送試験により、長期間の輸送に耐える鮮度保持技術が高く評価されたことによるものです。
- ・今後も、インターネットを活用した商談支援を通じ、海外への販路開拓に取り組みます。



シンガポールの量販店で販売される「博多万能ねぎ」

## (中国の商談会で、県産酒の商談が新たに16件成立)

- ・県では、県産酒の海外での販路を開拓するため、国内外で開催される商談会に出展する酒蔵を支援しています。
- ・令和3年度は、中国で開催された食品展示商談会に県内2つの酒蔵が出展し、16件の商談が成立しました。
- ・今後も、商談会への出展支援を通じ、販路開拓や輸出拡大に取り組みます。



食品展示商談会「FHC2021」  
(中国・上海)

## (産地と海外バイヤーがオンラインセミナーで意見交換)

- ・県では、農産物の輸出に取り組む産地を拡大するため、生産者やJA職員、市町村職員を対象に輸出促進セミナーを開催しています。
- ・令和3年度は、福岡とシンガポールをインターネットでつなぎ、現地バイヤーから日本産品の販売状況や消費者ニーズに関して講演いただくとともに、意見交換を行いました。
- ・参加者からは「具体的な品目の売れ行きや販路開拓の手法について知ることができ、非常に参考になった」という声が聞かれました。
- ・今後も、セミナーの開催を通じて、輸出に対する産地の意識を醸成し、輸出拡大を推進します。

Keywords: ローカルプロデュース、健康志向、種類豊富、良品確保  
オーガニック、カットフルーツ、トロピカル、トリアフ、高級品

主な果物	主な輸出量(2019年)	主要輸出先	特徴
柑橘類	1,700万t(1位) 世界第2位 日本第3位	中国(31%) 米国(19%) 韓国(13%) ヨーロッパ(12%)	柑橘類はトロピカル系の品種で、高級品として輸出されています。
アボカド	1,000万t(4位) 世界第2位 日本第2位	米国(35%) 日本(12%) 韓国(10%)	アボカドはトロピカル系の品種で、高級品として輸出されています。

2020年シンガポールのフルーツ消費量  
407989 (トン)

シンガポールの季節ごとの果物  
SINGAPORE'S FRUIT SEASONS

シンガポールの伝統的果物

シンガポールで買付けられるフルーツ店  
カットフルーツマニアなどが買える

シンガポール向け輸出促進セミナー  
(オンライン開催)

### トピック

#### ○ 九州・山口が一体となり、海外で農産物をPR

- ・「九州地域戦略会議※」では、九州・山口各県と経済団体が連携して農林水産物の輸出拡大に取り組んでいます。
- ・令和3年度は、シンガポールと香港の量販店において、本県の「あまおう」をはじめとした各県産の農産物の販売促進フェアを開催しました。
- ・フェアに訪れた消費者からは「果物や野菜の色や形が良く、どれも美味しい」「化粧箱が華やかなので、ギフトとして使いたい」といった声が聞かれ好評でした。

※九州地域戦略会議：九州各県、山口県及び（一社）九州経済連合会で構成。「九州はひとつ」の理念のもと、九州独自の施策に取り組んでいる。



九州・山口フェア  
(シンガポール)

## (4) 6次産業化を推進

### (6次化商品の開発を支援し、商品の魅力を広く発信)

- ・県では農林漁業者の所得向上を図るため、商工団体と連携し、農林漁業者が行う6次化商品の開発やPRを支援しています。
- ・6次化商品の魅力PRと販売拡大を目的に開催している「福岡県6次化商品コンクール」には、令和3年度、農林漁業者や農業高校から合計44点の出品があり、県産大豆を使った「だいす3兄弟」と「福岡ふくよか納豆」が県知事賞を受賞しました。また、県知事賞をはじめとする受賞商品は、「DOCORE(どおこれ)ふくおか商工会ショップ」でPR販売会を行いました。
- ・今後も、6次化商品の開発を支援するとともに、商品の魅力を広く発信していきます。



「だいす3兄弟」



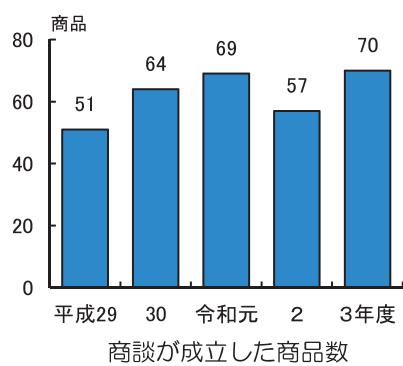
DOCOREでのPR販売会

### (首都圏での商談会や販売会で70商品の商談が成立)

- ・県では、6次化商品の販路を拡大するため、商談会や販売会への出展を支援しています。
- ・令和3年度は、首都圏での「第56回スーパーマーケット・トレードショー2022」や、オンラインで開催された「Food EXPO Kyushu2021」等への出展支援のほか、事業者に代わって専門家がバイヤーと商談する「代行商談」を支援しました。また、東京都内で5日間開催した「福岡県6次化商品PR販売会」にあわせて、オンライン販売も実施しました。
- ・これらの取組の結果、70商品の商談が成立しました。
- ・今後も、商談会や販売会の出展支援により、6次化商品の販路拡大を進めていきます。



首都圏での商談会

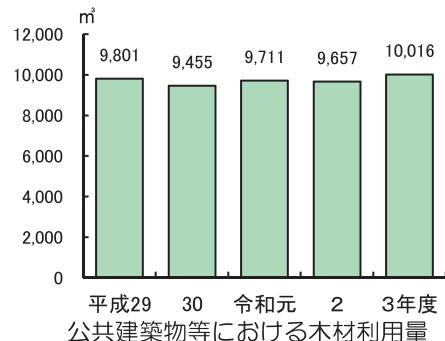


資料：園芸振興課調べ

## (5) 県産木材の利用を推進

### (公共施設における木材の利用量が1万m<sup>3</sup>超え)

- ・県では、建築物における木材利用を促進するため、公共建築物の木造・木質化を推進しています。
- ・令和3年度は、太宰府交番の木造化や、香椎高校体育館の木質化を行いました。また、市町村でも、奥八女焚火の森キャンプフィールドの宿泊棟をはじめとした施設で木造・木質化が進められました。
- ・これらの結果、令和3年度の公共施設における木材利用量は初めて1万m<sup>3</sup>を上回りました。
- ・今後は、公共施設に加え、民間の非住宅建築物においても県産木材を利用した木造・木質化を推進します。



資料：林業振興課調べ



歴史ある太宰府の景観に合わせ  
木造化された太宰府交番

### (優良な建築物の表彰で木造・木質化を推進)

- ・県では、県産木材の需要拡大を図るため、木造・木質化のモデルとなる優れた建築物を「福岡県木造・木質化建築賞」として表彰しています。
- ・8回目となる令和3年度は、住宅や保育施設など38点の応募があり、その中から10点の建築物を表彰しました。木造の部では、焼杉板を外壁に使用したモダンな外観を持つ伝統木造構法のオフィスが、木質化の部では、子どもが触れる壁などの内装材に木材をふんだんに使用した保育施設が、大賞を受賞しました。
- ・今後も、木を使った建物の良さを県民に広く伝え、幅広い木材利用につなげていきます。



木造の部 大賞  
「株式会社 Kotori works 事務所」  
(うきは市)



木質化の部 大賞  
「幼稚園型認定こども園  
おひさまくるめようちえん」  
(久留米市)

## (建築士や工務店に先駆的な木造建築を紹介)

- ・県では、非住宅分野での木材利用を促進するため、建築士や工務店を対象に、先駆的な木造建築物の見学会や発表会を開催し、その工法や設計方法といった技術の普及を図っています。
- ・令和3年度は、C L T<sup>\*</sup>と鉄骨を併用したハイブリッド構造の先駆的技術に関する発表会をオンラインで開催し、88人が参加しました。参加者からは、「C L Tの活用について知識が深まり参考になった」、「今後、鉄骨+C L T工法も検討したい」といった声が聞かれました。
- ・今後も、モデルとなる木造建築物の見学会や発表会を通じて、非住宅分野における木造建築のノウハウを広め、木材需要の創出に努めます。

<sup>\*</sup>C L T : Cross Laminated Timber (直交集成板) の略。板の層を各層で互いに直交するよう積層接着した厚型パネル。断熱性と耐震性に優れており、大型施設や中層ビル等の新たな用途での木材需要の創出が期待できる。



ハイブリッド構造の施工状況  
(飯塚市)



完成したハイブリッド構造建築物

## トピック

### ○ 新型コロナウイルス感染対策と併せた民間施設の木質化を推進

- ・県では、県産木材の需要拡大に向け、令和3年から、店舗やオフィスといった民間の施設を対象に、新型コロナウイルス感染防止対策の強化につながる県産木材を利用したリノベーションや、木製家具の導入を支援しています。
- ・この取組により、県内 71 の施設において、県産木材を利用した内装の木質化や木製パーテーションの導入が行われました。実施した事業者からは、「木の温もりや匂いがとても良く、来客者や従業員から評判が良い」、「来客者が増加し、お店の売り上げが伸びた」といった声が聞かれました。



福岡おもちゃ美術館（福岡市）



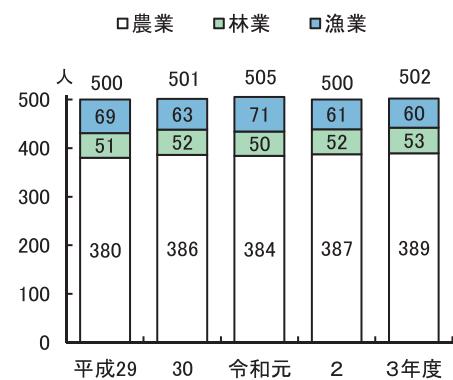
THE OUTLETS KITAKYUSHU  
フードコート（北九州市）

### 3 農林水産業の次代を担う「人財」を育成

#### (1) 新規就業者の確保・定着を促進

##### (新規就業者は5年連続で500人を突破)

- ・県では、新規就業者の確保に向け、就業セミナーや相談会の開催といった、様々な取組を行っています。この結果、令和3年度の新規就業者は502人で、5年連続で500人を超えるました。
- ・農業では、雇用就農が163人、新規就農者が226人の合計389人、林業では、森林組合や民間事業体に合計53人、漁業では、漁船漁業や養殖業に合計60人が就業しました。
- ・今後も、新規就業者の確保に向け、農林漁業一体となって、継続的な就業支援に取り組んでいきます。



新規就業者数

資料：後継人材育成室、  
林業振興課、  
水産振興課調べ

##### (新規就業セミナーや相談会をオンラインで初開催)

- ・県では、新規就業希望者が農林漁業への理解を深め、スムーズに就業できるよう、新規就業セミナーや相談会を開催しています。
- ・令和3年度は、コロナ禍でも新規就業者の確保を図るため、初めてオンラインで開催し、県内外から農林漁業への就業を希望する157人が参加しました。
- ・今後も、開催方法を工夫しながら、新規就業者の確保に向けて相談対応を強化していきます。



オンライン相談会

##### (アドバイザー派遣で新規就農者の早期定着を促進)

- ・県では、市町村に新規就農アドバイザー※を派遣し、新規就農者が持つ悩みや課題に対して、関係機関とともに解決策を提案しています。
- ・令和3年度は、3人の新規就農アドバイザーが県内10市町村の新規就農者25人の相談に応じました。新規就農者からは「アドバイザーを中心に、関係機関の連携したサポートを受けることができた」との声が聞かれています。
- ・今後も、関係機関と一体となった支援を実施し、新規就農者の早期定着を促進していきます。



新規就農アドバイザーによる支援

※新規就農アドバイザー：市町村や農業団体といった関係機関と連携して新規就農者の様々な課題に解決策を提案する、地域農業に精通したJAや県の元職員等。

### (新規就農者の経営確立を目指し、営農講座を開催)

- ・県では、就農3年未満の新規就農者を対象に、農業知識の基礎を学ぶ営農講座を普及指導センターで開催しています。
- ・令和3年度は、81回の講座を延べ718人が受講し、受講者からは「土づくりや病害虫防除について大変勉強になった」、「学んだことを、自身の経営に生かしたい」といった声が聞かれました。
- ・今後も、新規就農者が早期に経営確立できるよう、支援していきます。



営農講座（農業機械研修）

### (「森林の仕事ガイダンス」に県内外から希望者が集まる)

- ・県では、林業の担い手確保のため、福岡県林業労働力確保支援センターと連携して、就業に関する情報提供や相談に応じる「森林の仕事ガイダンス」を開催し、森林の仕事に関する情報を提供しています。
- ・令和3年度は、県内外から相談に訪れた36人の就業希望者に対して、仕事内容や就業後の研修制度について説明を行いました。参加者からは「林業への理解が深まり、就業のイメージが湧いた」と好評でした。
- ・今後も、新規就業者の確保に向け、情報発信や相談対応を強化していきます。



熱心に話を聞く参加者

### (林業従事者の経験に応じ、きめ細かな人材育成を実施)

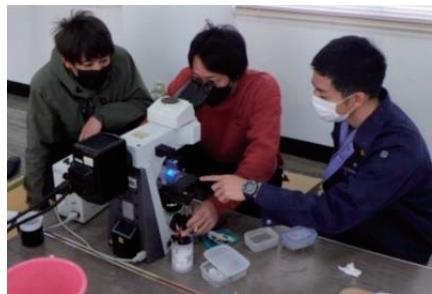
- ・県では、林業従事者の定着や技術向上のため、それぞれの経験に応じ、各種の人材育成研修を実施しています。
- ・令和3年度は、この研修に延べ91人が参加し、このうち、就業後3年から5年程度経過した林業従事者を対象とした研修では、伐倒作業や原木を運び出す架線作業といった基礎的な技術に加え、研修生からのニーズにあわせ、大雨でも壊れにくい森林作業道の整備方法や高性能林業機械の操作を追加し、内容を充実しました。
- ・参加者からは、「壊れにくい作業道の作り方を学べて勉強になった」、「実際に、高性能機械を操作し、作業の効率化に役立つことを実感した」といった声が聞かれました。
- ・今後も引き続き、次代を担う林業従事者の育成に取り組んでいきます。



森林作業道の整備方法について  
研修を受ける林業従事者

## (ノリ養殖技術研修会で若手漁業者の技術を向上)

- ・県では、若手漁業者のノリ養殖技術の向上を目的とした「ノリ養殖技術研修会」を開催しています。
- ・令和3年度の研修会には、13人が参加し、顕微鏡を使って、ノリの芽付きや生長、病気を判断する実習を行い、参加者からは「習得した技術を養殖現場で活用したい」との声が聞かれました。
- ・今後も、ノリ養殖の安定生産に向けて、研修を継続し、若手漁業者の技術の向上を図っていきます。



ノリ養殖技術の指導を受ける  
若手漁業者

### トピック

#### ○ 林業における労働災害防止に向けた取組を推進

- ・林業における労働災害の発生率は全産業平均の11倍と非常に高いことから、労働災害を防止することは、安全な林業の実現に加え、新規就業者の確保・定着を促進するためにも重要です。
- ・令和3年度は、伐倒技術と安全作業意識の向上を目的として、「福岡県伐倒技能選手権」を筑前町で開催し、12チーム36人が日ごろ培った技術を競いました。
- ・また、労働基準監督署、森林管理署、林業・木材製造業労働災害防止協会と連携して林業経営体の作業現場18か所で合同パトロールを実施し、作業計画や安全装備、作業状況の確認と、労働安全に関する指導を行いました。



審査員による競技後の講評

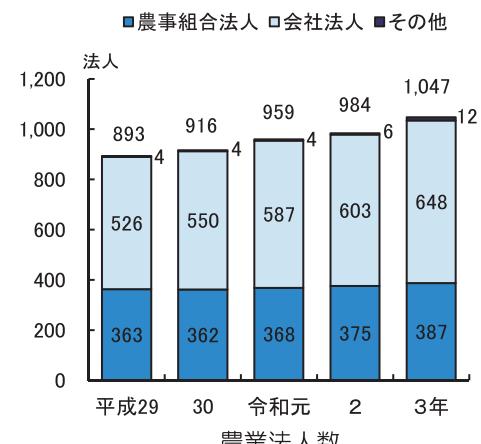


安全な伐採作業の実施を確認

## (2) 担い手の経営力を強化

### (農業法人数は 63 増の 1,047 法人に)

- ・県では、担い手の経営力強化を図るため、法人化を目指す経営体を対象に、経営管理に関する講座を開催するとともに、税理士や社会保険労務士といった専門家の派遣を行っています。
- ・この結果、令和 3 年度の農業法人数は、前年度に比べ 63 増となる 1,047 法人となりました。分野別では、野菜が最も多く、26 法人増加しています。
- ・今後も、雇用の導入による規模拡大や農業経営の複合化を支援することで、経営の安定を推進していきます。



資料：経営技術支援課調べ

### (「農業経営アカデミー」を開講し、担い手の経営力を強化)

- ・県では、本県農業をけん引する優れた農業経営者の育成に向け、「ふくおか農業経営アカデミー」を開催しています。
- ・令和 3 年度は、経営の多角化や人材育成で先進的な取組を実践している講師から、経営の発展に必要な事業計画策定の考え方や実践方法、従業員のキャリアアップといった講義を受けました。
- ・受講生からは、「多くの学びを参考に経営戦略を策定できた」、「経営者としてやる気が向上した」、「受講生同士の交流は今後も継続したい」との声が聞かれました。
- ・今後も、優れた農業経営者の育成に向け、支援していきます。



農業法人代表による人材育成の講義



受講者によるグループワーク

## (農業の雇用・労働相談窓口を設置し、雇用導入を促進)

- ・県では、令和3年度に、農業に精通した社会保険労務士が農業経営者からの雇用・労働に関する相談に対応する「農業の雇用・労働相談窓口」を開設しました。
- ・給与や各種保険、農業者年金、雇用者の募集方法、外国人技能実習生の受入といった80件の相談があり、相談した農業経営者からは、「社会保険や労働保険について詳しく聞くことができた」、「法人化に向けた具体的なイメージができた」といった感想が聞かれました。
- ・今後は、相談窓口の設置に加え、相談結果を関係者で共有することで、関係機関と一体となって、農業経営者の雇用管理能力の向上を支援していきます。



農業の雇用・相談窓口

## (林業における魅力ある職場づくりを支援)

- ・持続的な林業経営を行うためには、経営者と現場技術者が課題を共有し、働きやすく魅力的な職場づくりなど、経営基盤の強化に向けた取組が必要です。
- ・このため、県では、業務体制の改善を目的に「林業経営発展塾」を開催しており、令和3年度は、経営体が抱える課題の改善方法を経営コンサルタントから学ぶ実践研修と、実践研修の取組内容や効果の事例を紹介する集合研修を開催しました。
- ・集合研修には51人が参加し、「経営者と現場技術者が課題を共有し、改善を図る必要性について理解できた」との声が聞かれました。
- ・今後も、林業の現場における、魅力ある職場づくりを支援していきます。



集合研修により、経営者と  
現場技術者が課題を共有

## トピック

### ○ 松藤富士子氏（大木町）が令和3年秋の褒章で黄綬褒章を受章

- ・大木町の松藤富士子氏が令和3年秋の褒章で黄綬褒章を受章しました。松藤氏は、女性4人で共同出資した農事組合法人モア・ハウスの理事として農業経営に参画し、ぶなしめじとアスパラガスを中心とした高収益農業を実践しています。
- ・また、平成22年、女性2人とともに、農家レストラン「株式会社ビストロくるるん」を立ち上げ、地域の食材を活かしたメニューの開発や小学生への食育授業といった取組を実施しており、先駆的女性経営者として地域に大きく貢献しています。
- ・このほか、県農林水産業振興審議会委員や県農業法人協会会長、日本農業法人協会副会長といった役職を歴任し、本県のみならず全国の農林水産業の振興にも寄与しています。



県庁で受章報告を行う松藤氏

### (3) 女性農林漁業者の能力発揮と社会参画を促進

#### (5年間で 139 人の女性農林漁業者が起業)

- ・県では、農林漁業の重要な担い手である女性農林漁業者の起業活動を支援しています。
- ・令和 3 年度は、女性農林漁業者を対象とした「起業家育成塾」に 16 人が参加し、商品開発やマーケティング、食品の衛生管理を学ぶとともに、各自の事業プランを発表しました。また、県庁ロビーで、米粉スイーツや酢わかめをはじめ、起業した女性農林漁業者が開発した商品の展示・販売を行いました。
- ・こうした取組により、3 年度の女性農林漁業者の新規起業数は 22 件となり、5 年間で 139 人の女性農林漁業者が起業しました。今後も、意欲ある女性農林漁業者の起業活動を支援していきます。

女性農林漁業者の新規起業数

単位: 件

平成 29	30	令和元	2	3 年度
21	48	19	29	22

資料：経営技術支援課、水産振興課調べ



県庁ロビーでの展示・販売

#### (企業と連携して女性農業者が働きやすい環境づくりを促進)

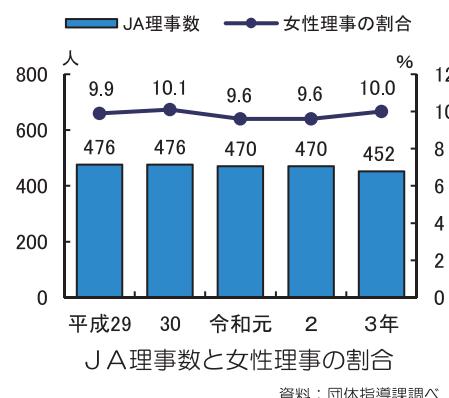
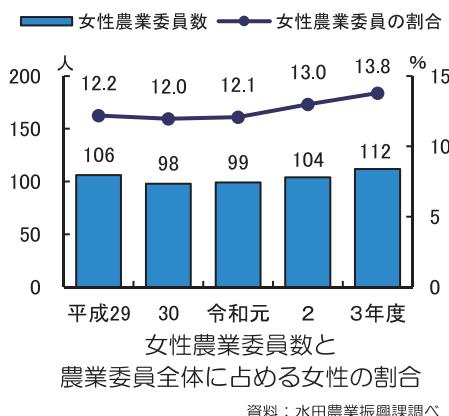
- ・県では、女性が働きやすい環境づくりの一環として、女性農業者と学生、企業が連携した農作業用の靴や手袋といった新商品の開発を支援しています。
- ・令和 3 年度は、これまで開発された商品を通じて、商品開発のプロセスを学ぶことを目的に、県内の女性農業者を対象とした研修会を開催しました。商品開発に携わった女性農業者が講師となり、商品コンセプトの設定から商品化に至るまでの過程について講演を行うとともに、参画した企業による開発商品の展示を行いました。
- ・今後も、開発された商品の P R を支援するとともに、女性が働きやすい環境づくりを促進します。



企業による商品説明

## (女性農業者の社会参画を推進)

- ・女性農業委員やJAグループの女性理事は、組織内での活動に加え、女性農業者の相談相手として、地域の農業を支える重要な役割を果たしています。
- ・このため、県では、国や県農業会議、農業委員会女性ネットワークと連携し、農業委員の改選が予定されている市町村を訪問して女性登用を働きかけるとともに、JAグループでの女性理事の登用を推進しています。
- ・この結果、令和3年度の女性農業委員数は112人、農業委員全体に占める割合は約14%となりました。また、JAグループの女性理事数は、45人で、理事全体に占める割合は10%となりました。
- ・今後も、関係機関や団体と連携し、地域農業における女性農業者の社会参画を推進していきます。



### トピック

#### ○ 宇佐川美奈氏（久留米市）が農山漁村女性活躍表彰で農林水産大臣賞を受賞

- ・久留米市の宇佐川美奈氏が、令和3年度農山漁村女性活躍表彰の若手女性チャレンジ部門において、最高位の「農林水産大臣賞」を受賞しました。
- ・「ふくおか農業経営アカデミー」の修了生である宇佐川氏は、平成24年に就農してリーフレタスの栽培を始め、就農から10年で地域のトップクラスとなる規模にまで経営を拡大しています。
- ・フレックスタイム制や作業負担が軽い品目の導入といった、子育て中の女性が働きやすい環境づくりをはじめとする、女性の視点を活かした経営を行っています。また、地元農家と連携した夏野菜セットの販売や、子どもを対象とした野菜教室の開催により、地域の活性化に貢献しています。



県庁で受賞報告を行う宇佐川氏（右）

## 4 県民とともにつくる農林水産業の推進

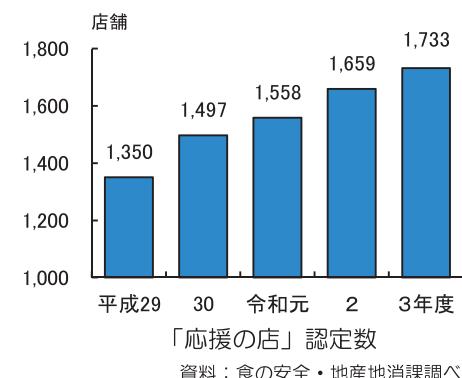
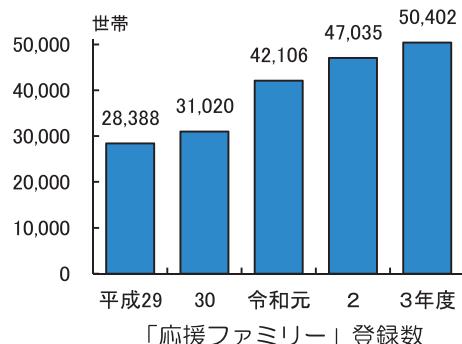
### (1) 農林漁業の応援団づくりにより県民の支持を拡大

#### (「応援ファミリー」が50,000世帯、「応援の店」が1,700店を突破)

- ・県では、農林水産業への県民の理解促進を図るために、県産農林水産物を積極的に買って応援する「地産地消応援ファミリー」と、積極的に使って応援する「地産地消応援の店」からなる「ふくおか農林漁業応援団」づくりを推進しています。
- ・令和3年度は、県の包括連携協定企業を通じた重点的な登録の働きかけにより「応援ファミリー」が5万世帯を超えるました。また、「応援の店」は1,700店を突破しました。
- ・さらに、企業・団体を対象に推進している、県産農林水物の消費拡大の取組や農山漁村地域での共助活動を行う「応援団体」の登録は658団体まで拡大しています。
- ・今後も、「農林漁業応援団」の輪を広げ、地産地消を推進していきます。

※「ふくおか農林漁業応援団」ホームページURL:

<https://f-ouen.com/ouen/family/>



#### (「応援の店」のシェフ向け産地ツアーで、新たな取引が開始)

- ・県では、「地産地消応援の店」での県産農林水産物の利用拡大のため、「応援の店」のシェフを対象とした「産地ツアー」と「産地PR交流会」を実施しています。
- ・令和3年度は、宗像市や筑豊地域の産地を巡るツアーを2回実施するとともに、福岡市内で交流会を開催した結果、野菜や水産物の新たな取引が3店舗で始まりました。
- ・今後も、こうした取組を通じ、「応援の店」での県産農林水産物の利用拡大を進めています。



野菜の産地視察

### (農林漁業体験ツアーをオンラインでも開催)

- ・県では、生産者との交流を通じて県民の農林水産業への理解促進を図るため、「地産地消応援ファミリー」を対象に、農林漁業体験ツアーを開催しています。
- ・令和3年度は、コロナ禍に対応した取組として、オンラインツアーを初めて開催し、全10回のツアーでは、延べ308人が「博多方能ねぎ」や「博多和牛」、「合馬たけのこ」といった県産農林水産物の生産者との交流や調理体験を行いました。
- ・参加者からは、「コロナ禍でも自宅から安心して参加でき、生産者の思いを知ることができた」、「子どもと一緒にリラックスして生産者や参加者と交流できた」との声が聞かれました。
- ・今後も、生産者との交流の機会を提供し、農林水産業や農山漁村、地産地消に対する県民の理解促進を図っていきます。



「博多方能ねぎ」のオンラインツアー

## (2) 食育・木育・花育を推進

### (子どもたちの県産農林水産物への親しみを育む)

- ・県では、子どもの頃から県産農林水産物に親しんでもらう取組として、県内の公立小・中学校、特別支援学校を対象に食育活動を展開しています。
- ・令和3年度は、21校で野菜ソムリエやJA全農ふくれん職員を講師にした食育出前講座を実施したほか、193校での県産かきの皮むき体験を通して、地産地消の重要性や生産者の努力を伝えました。
- ・児童・生徒からは「県内ではたくさんの野菜や果物が育てられていることを知り驚いた」、「福岡のかきは、甘くてとてもおいしくて自慢できると思った」との感想があり、教員からは「県のすばらしい『食』に触れることができる良い機会だと思う」といった声が聞かれました。今後も、学校と連携し、子どもたちの食育を推進していきます。



食育出前講座



子どもたちからのお礼状

### (イベント等を活用し木育を推進)

- ・県では、木材や木製品とのふれあいを通じて木への親しみや木材への理解を深める「木育」を推進しています。
- ・令和3年度は、木育インストラクター養成講座の開催やボランティア団体の木育活動を支援とともに、住宅関連イベント「住まいるフェア福岡 2021」において、県産スギを使ったつみきで、子どもたちが自由に遊べる空間を作りました。
- ・今後も、県民が木とふれあえる様々な機会を創出し、森林や木材に対する理解を促進します。



県産スギのつみき

## (展示林を整備し県民が森林とふれあう機会を創出)

- ・県では、県民が森林とふれあう機会を拡大するため、市町村が実施する展示林<sup>\*1</sup>の整備を、福岡県森林環境税<sup>\*2</sup>を活用して支援しています。
- ・令和3年度は、10市町において、広葉樹の植栽や間伐といった森林の整備、休憩施設の改修が行われました。
- ・今後も、森林を守り育てる意識を高めるため、県民が親しむ身近な森林の整備を支援していきます。

※1 展示林：森林公園や市町村有林といった県民に身近な場所に設置する、展示効果の高い見本林。

※2 福岡県森林環境税：森林を健全な状態で次世代へ引き継ぐため、荒廃した森林の整備に必要な財源として、平成20年度に県が創設。



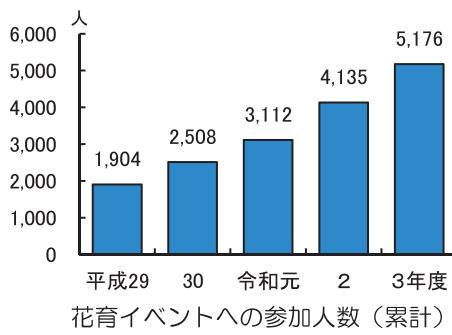
整備された展示林（福岡市）

## (フラワーアレンジメント教室で子どもたちに県産花きの魅力をアピール)

- ・県では、若い世代の花への関心を高め、家庭で花を飾る習慣を育むため、小学生から高校生までを対象とするフラワーアレンジメントや寄せ植え教室を実施しています。
- ・令和3年度は、こうした取組を通じて34校1,041人の児童・生徒に県産花きの魅力を伝えました。児童からは、「花に興味がもてたので、家でもやってみたい」、「持って帰ったら家族が喜んでくれてうれしかった」、保護者からは「福岡で栽培している花と知り、驚いた」、「花が飾られていると心が安らぐ。わが子が作ったと思うと、なおさら嬉しい」との声が聞かれました。
- ・今後も、若い世代の花への関心を高めるとともに、花き産業への理解を促進していきます。



小学校でのアレンジ教室



資料：園芸振興課調べ

### (3) 地産地消を推進

#### (Webやアプリを活用して食育・地産地消を推進)

- ・県では、より多くの県民へ県産農林水産物や地産地消に関する情報を発信するため、令和3年度から県公式LINEで、「地産地消応援の店」のメニューや直売所・観光農園の情報を配信しています。
- ・また、3年度は、「応援の店」や直売所、観光農園の誘客促進のため、「ふくおか地産地消 行けば行くほど！&来れば来るほど！キャンペーン」と題し、県内の直売所や観光農園を巡るモバイルスタンプラリーや、「応援の店」の利用ポイントを集める来店ポイントキャンペーンを県内583店舗で実施し、延べ30,327人が参加しました。
- ・さらに、家庭で県産食材を使った料理を楽しんでもらうため、「ふくおかの食で健康メニュー」のレシピ動画を、YouTubeで公開しています※。今後も、情報発信を通じて、県民の食育・地産地消を進めています。

※YouTubeチャンネル「いただきます！福岡のおいしい幸せ」URL：  
<https://www.youtube.com/channel/UC7Dxz4EJr0MjQAPD42R5zCw>



「ふくおか地産地消行けば行くほど！&来れば来るほど！キャンペーン」  
ロゴマーク

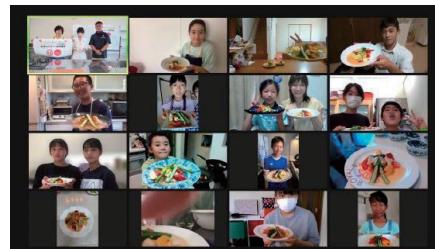


「ふくおかの食で健康メニュー」  
レシピ動画



#### (「ふくおかの食で健康メニュー」で、Jr. アスリートを応援)

- ・県では、旬の県産農林水産物をたっぷり使い、子どもの体の発達や中高年期の病気の予防などの目的に応じて提案する「ふくおかの食で健康メニュー」を作成し、地産地消と県民の健康増進を推進しています。
- ・令和3年度は、スポーツに取り組む小中高校生やその保護者を対象に、栄養セミナーとJr.アスリート向けメニューの調理体験をオンラインで開催しました。参加者からは「スポーツ栄養を考えた料理がとても勉強になった」、「親子のコミュニケーションのきっかけとなり、食卓での会話も弾んだ」といった声が聞かれました。
- ・また、JA全農ふくれんと連携して、「ふくおかの食で健康メニュー」を活用した「はかた地どり」や県産野菜を使った弁当を開発・販売しました。
- ・今後も、県民の健康づくりに向けたメニューを活用し、食育・地産地消を推進していきます。



Jr. アスリート食育セミナー



「はかた地どり」を使った弁当

## (「地産地消料理教室」を「けんちょう Food Marche」で開催)

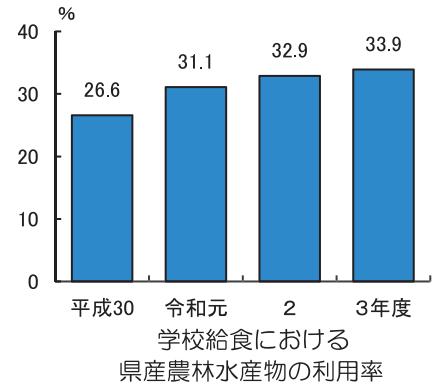
- ・県では、県産農林水産物の魅力や料理方法を県民に知ってもらうため、プロの料理人や野菜ソムリエを講師に「地産地消料理教室」を開催しています。
- ・令和3年度は、県庁地下にある「けんちょう Food Marche」において、親子を対象に、いちご「あまおう」やキウイフルーツといった県産果物を使ったパンケーキづくり教室や食品ロスやアウトドアをテーマとした料理教室を実施しました。
- ・今後も、これらの取組を通じて、県産農林水産物への県民の関心を高め、消費拡大を図ります。



けんちょう Food Marche での  
県産果物パンケーキづくり

## (学校給食で県産農林水産物の利用が拡大)

- ・県では、子どもの頃から県産農林水産物に親しんでもらうため、「夢つくし」や「元気つくし」をはじめ、キウイフルーツ「甘うい」、「はかた一番どり」といった県産農林水産物を学校給食に導入する取組を進めています。
- ・これらの取組により、令和3年度の学校給食での県産農林水産物の利用率は、前年度に比べ1.0ポイント増加し、33.9%となりました。また、学校給食や飲食店、企業へ食材を提供する直売所は2か所増加し、100か所になりました。
- ・今後も、学校給食での県産農林水産物のさらなる利用拡大に向け、取組を進めていきます。



学校給食や飲食店、企業へ  
食材を提供する直売所数

年度	平成30	令和元	2	3年度
直売所数	88	91	98	100

資料：食の安全・地産地消課調べ

## (県産水産物の魅力を「ふくおかの魚フェア」でPR)

- ・県では、県産水産物の消費拡大に向けて、積極的に地魚を取り扱う店舗を「ふくおかの地魚応援の店」として登録するとともに、応援の店を活用した県産水産物の魅力を発信しています。
- ・令和3年度は、応援の店80店舗で「ふくおかの魚フェア」を開催し、各店舗では創意工夫した自慢の地魚料理が提供されました。
- ・フェアに参加した店舗からは「『地魚料理を堪能できた』とお客様から好評いただいた」との声が聞かれました。
- ・今後も、この取組を通じて、県産水産物の消費拡大を図ります。



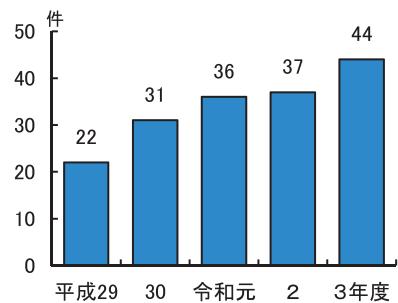
ふくおかの魚フェア特設サイト

## (4) 県産農林水産物の安全・安心を確保

### (国際水準GAPの認証取得は44件に拡大)

- ・県では、安全で持続可能な農業の実践に向けて GLOBALG.A.P. をはじめとする国際水準GAP<sup>\*</sup>の認証取得を目指す農業者を支援しています。
- ・認証取得のための審査費用や農薬保管庫の設置といった環境整備に要する経費への支援を行うとともに、輸出や大手量販店との契約を目指す生産者を対象に、リスク分析に基づく作業ルールの作成をはじめ、衛生管理、労働安全の確保を学ぶ国際水準GAPレベルアップ研修会を実施した結果、令和3年度の認証取得数は、前年度に比べ7件増の44件となりました。
- ・今後も、国際水準GAPの認証取得を推進することで、安全で持続可能な農業の実践を進めていきます。

\*GAP: Good Agricultural Practice の略で、農業生産の各工程の実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動であり、食品の安全性向上、環境の保全、労働安全の確保に資するとともに、農業経営の改善や効率化につながる取組。



国際水準 GAP の認証取得数

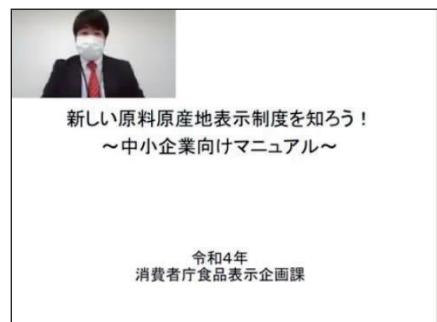
資料：食の安全・地産地消課調べ

### (新しい原料原産地表示制度を直売所や事業所に周知)

- ・消費者が食品を購入するにあたり、その食品の魅力や安全性などを理解するうえで、食品表示は重要な情報です。
- ・令和4年4月から、国内で製造されたすべての加工食品に対して原料原産地の表示を義務付ける新しい原料原産地表示制度が約5年間の移行期間を経て、完全施行されました。
- ・これに先駆け、県では、3年度に2人の食品表示指導員が2,266か所の事業所を直接訪問して制度の周知を図ったほか、消費者庁や商工会議所といった関係機関と連携した説明会の開催や、ホームページや会報誌での普及・啓発を行いました。
- ・今後も、食品表示の適正化に向けた取組を実施していきます。



直売所連絡協議会での制度説明



新しい原料原産地表示制度を知ろう！  
～中小企業向けマニュアル～

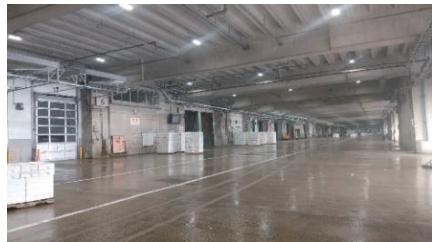
令和4年  
消費者庁食品表示企画課

消費者庁と連携した制度説明  
(オンライン開催)

## (博多漁港の高度衛生管理施設が供用開始)

- ・県では、安全・安心な県産水産物を安定供給とともに輸出への対応も可能な高度衛生管理※を行う施設の整備を推進しています。
- ・令和3年12月には、博多漁港において、鳥や昆虫の侵入を防ぐとともに、温度管理や防風、防塵対策を備えた閉鎖型荷さばき所が完成し、供用を開始しました。
- ・今後も、漁港の高度衛生管理施設の整備を進め、安全・安心な県産水産物の供給に向けた取組を推進します。

※高度衛生管理：水産物の陸揚げから荷さばき、出荷の工程で危害を分析し、危害要因を取り除くための対策を講じ、定期的な調査・点検、記録の維持管理と情報提供を可能とする総合的な衛生管理。



整備された博多漁港西卸売場棟

## (関係機関と連携し、家畜防疫体制を徹底)

- ・県では、畜産農家における家畜伝染病の発生予防対策の徹底や、発生時の迅速での確な初動防疫体制の構築に取り組んでいます。
- ・令和3年10月、糸島市で高病原性鳥インフルエンザの発生を想定した実地防疫演習を市や関係機関、協定団体と連携して実施し、備蓄資機材の搬送・受入や消毒ポイントの設置、防疫作業の行程について確認を行いました。
- ・今後も、家畜防疫体制を強化するため、家畜保健衛生所による飼養衛生管理基準の遵守指導を徹底します。



高病原性鳥インフルエンザ  
実地防疫演習

### トピック

#### ○ 熊本県で発生した高病原性鳥インフルエンザへの対応

- ・令和3年12月に熊本県の養鶏農場において高病原性鳥インフルエンザが発生しました。
- ・県では、搬出制限区域にあたる、みやま市役所高田支所駐車場に消毒ポイントを設置し、24時間体制で畜産関係車両を消毒して、ウイルスの拡散防止を徹底しました。
- ・併せて、県内全域の養鶏農場に対し、12月7日から28日までの期間、消毒を実施するよう告示し、消石灰を配布するとともに、飼養衛生管理基準の遵守徹底を指導しました。



みやま市消毒ポイントでの  
車両消毒

## 5 安心して住み続けられる農山漁村づくりを推進

### (1) 地域の特色を活かして農山漁村を活性化

#### (ジビエの店や観光列車との連携で「ふくおかジビエ」の消費を促進)

- ・県では、捕獲されたイノシシやシカの肉を「ふくおかジビエ」として有効活用する取組を推進しています。令和2年度から認定を進めている、県産ジビエを提供する飲食店「ふくおかジビエの店」は、4年3月末で41店舗に拡大しました。
- ・この認定店で、ジビエの美味しさを伝える「ジビエフェア」を3年10月から11月と4年2月の2回開催し、約3,200人がジビエの美味しさを堪能しました。
- ・さらに、西日本鉄道の旅列車「THE RAIL KITCHEN CHIKUGO」や平成筑豊鉄道のレストラン列車「ことこと列車」とも連携してこの取組を実施し、県産ジビエをPRしました。
- ・今後も、認定店の拡大を進め、ジビエの美味しさを県民に広くPRし、「ふくおかジビエ」の利用を促進していきます。



「ことこと列車」でのコース料理



「ジビエフェア」で提供された料理  
(シカモモ肉のロースト)

#### (中山間地域を支えるサポーターが2,500人を突破)

- ・県では、魅力ある中山間地域を支えるため、地域住民と一緒に活動する都市住民をサポーターとして登録する「中山間応援サポーター制度」を実施しています。
- ・令和3年度は、苅田町でのそばの収穫、上毛町での竹の伐採や竹灯ろう祭りの準備、福岡市早良区での茶の剪定といった活動を6市町村で11回実施し、合計200人のサポーターが参加しました。
- ・こうした地域で収穫された農産物やその加工品を中心販売する「ちゅう・さん・かんマルシェ」を県庁ロビーで開催して、中山間地域の魅力を発信するとともに、サポーターへの登録を呼びかけました。また、ホームページ※やSNSでのサポーター募集にも取り組んだ結果、「中山間応援サポーター」は4年3月末で2,556人となりました。
- ・今後も、中山間応援サポーターの輪を広げ、県民全體で中山間地域を支える取組を支援していきます。

※中山間応援サポーターホームページURL:

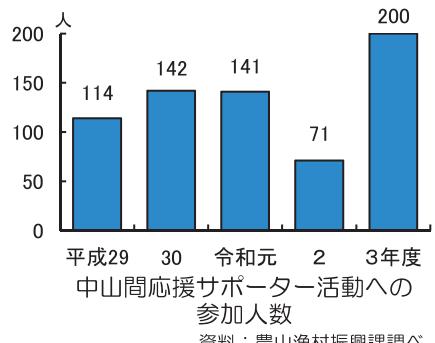
<https://f-ouen.com/chusankan/>



竹の伐採

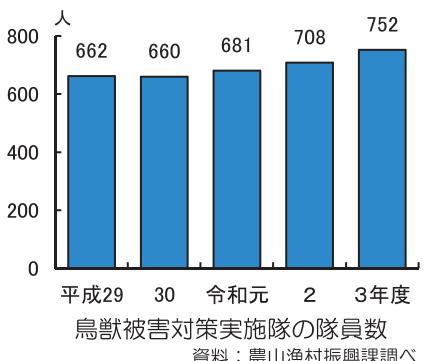
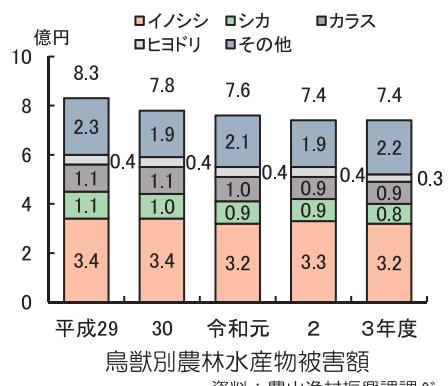


ちゅう・さん・かんマルシェ



## (総合的な鳥獣被害対策で被害額は減少)

- ・県では、鳥獣による農作物の被害を防ぐため、集落・農地への侵入防止や、捕獲、獣肉の有効活用といった対策を総合的に推進しています。
- ・特に獣肉の有効活用対策では、狩猟者の負担となっている捕獲後の個体の処置と獣肉加工施設への運搬を民間事業者が担う取組を、糸島市と添田町で実施しました。
- ・また、鳥獣の捕獲や防護柵の設置といった活動を行う「鳥獣被害対策実施隊」は 54 市町村で設置されており、令和 4 年 3 月末の隊員数は、前年度から 44 人増の 752 人となりました。
- ・こうした取組により、3 年度の農林水産物の被害額は、前年度から 200 万円減の 7.4 億円となり、ピークであった平成 22 年度の 15.7 億円に比べ半減しています。
- ・今後も、被害の更なる軽減に向け、関係機関と連携して総合的な鳥獣被害防止対策の推進に取り組んでいきます。



## (ポストコロナの旅行受入に向け、魅力ある農泊地域づくりを推進)

- ・県では、都市住民が農山漁村地域に宿泊し、滞在中に食事や体験を楽しむことで地域の活性化を図る、農泊地域づくりを進めています。
- ・令和 3 年度は、大規模校の教育旅行の受入に向け、7 つの農泊地域協議会が連携し、入離村式の開催や宿泊料金の設定といった体制を構築しました。また、安全管理や事故発生時の対策を含めた「農村民宿受け入れ家庭マニュアル」を作成するとともに、農作業体験や料理体験などの内容の充実を図るために、受入家庭での実地研修会を開催しました。
- ・さらに、個人旅行の受入体制の充実強化を図るため、農泊を核とした観光振興に取り組む豊前市、みやま市、大刀洗町の農泊地域協議会に対し、農泊実践者向け相談会の開催やモニターツアーの実施といった取組について支援を行いました。
- ・今後も、魅力ある農泊地域づくりを進め、農山漁村の活性化に取り組みます。



農村民宿受け入れ家庭マニュアル



受入家庭での実地研修会

## (地域資源を活用した中山間地域の活性化を促進)

- ・県では、中山間地域の農業・農村を維持するため、地域住民や市町村、直売所等で構成された、地域の活性化に取り組む地域協議会に専門家を派遣し、地域の課題解決に取り組んでいます。
- ・令和3年度は、福吉地域づくり推進協議会（糸島市）の地元食材を使用したレストラン「旬菜旬魚ふくふく」の開店や、新川・田篠地域協議会（うきは市）の棚田を活用したキャンプサイトの整備や組立式木製バンガローの開発を支援しました。
- ・今後も、こうした取組を県ホームページ※に掲載し、広く発信するとともに、地域協議会と連携し、中山間地域の活性化に向けた取組を支援します。

※県ホームページURL：

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/tyuusannkan-sinkousien.html>



レストラン「旬菜旬魚ふくふく」



組立式木製バンガロー

## (「けんちゅう Food Marche」で、しいたけ教室を初開催)

- ・県では、中山間地域の特産物の一つであるしいたけの消費拡大のため、関係団体と連携して県産しいたけの魅力を発信しています。
- ・令和3年度は、県庁ロビーでの販売会に加え、地産地消応援ファミリーなどを対象に、しいたけの生産方法や保存方法、美味しい食べ方について学ぶ「福岡県産のしいたけ教室」を初めて開催しました。参加者からは、「しいたけの生産方法を初めて知った」、「家でも作りたい」といった声が聞かれました。
- ・今後も、しいたけ教室や販売会の開催により、県産しいたけの消費拡大を推進します。



県庁ロビーでの販売会



福岡県産のしいたけ教室

## (たけのこの産地を維持するため、生産環境整備を支援)

- ・県では、日本一のたけのこ産地を維持するため、生産環境の整備を支援しています。
- ・令和3年度は、八女市や赤村において、傾斜のある竹林での作業に不可欠な小型運搬車の整備や、イノシシやシカの侵入を防ぐネットの設置を支援しました。
- ・今後もこれらの取組を続け、日本一のたけのこ産地を支援していきます。



小型運搬車

## (中山間地域の担い手確保に向け、半農半Xを推進)

- ・県では、中山間地域の新たな担い手の確保に向け、農業を営みながら他の仕事にも携わる半農半Xというライフスタイルを推進しています。
- ・令和3年度は、半農半Xの受入を進める、香春町や添田町ほか3市の地域協議会に対し、農業体験や栽培技術研修といった取組を支援するとともに、半農半Xを紹介するホームページ※の開設やチラシの作成のほか、半農半Xと地方移住に関する研修会をオンラインで開催しました。
- ・今後も、各地域協議会の活動支援を通じて、中山間地域の担い手確保を進めています。

※半農半X紹介ホームページURL：<https://f-ouen.com/hannou/>



半農半Xの推進チラシ

## (自伐林家を育成し、地域での森林整備活動を支援)

- ・県では、地域の森林整備の新たな担い手として、平成30年度から自伐林家※を育成、支援しています。
- ・令和3年度は、自伐林家に必要な知識や技術の習得を目的に「自伐林家育成研修」を開催し、10人が参加しました。また、継続的に森林整備を実施できるよう、自伐林家が参加する2つの林業研究グループに対し、小型バックホウやチェーンソーといった自伐用機材の導入を支援しました。
- ・今後も、地域の森林が持続的に整備・保全されるよう、自伐林家の育成を進めています。

※自伐林家：主に自分の持ち山で、週末や仕事の合間に利用し、無理なく間伐等による森林の手入れを行う林家。



チェーンソー技術研修

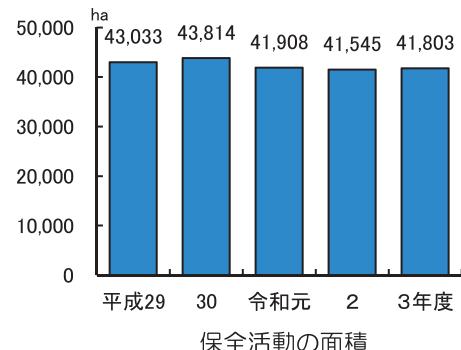
## (2) 農林水産業が持つ多面的機能を維持・増進

### (保全管理活動に取り組む農地面積は 41,803ha に拡大)

- 農業や農村が持つ多面的機能を維持・増進するには、農地や水利施設の継続的な保全活動が不可欠です。県では、多面的機能支払制度と中山間地域等直接支払制度を活用し、地域の活動組織による保全活動を支援しています。
- 令和3年度は、遊休農地をヒマワリやコスモスの花畠にした景観づくりへの支援や、保全活動中の安全対策に関するDVDを作成し、周知しました。また、複数の地域にまたがり、広域で活動を行っている熊本県の活動組織を講師に招き、事例紹介を行いました。
- この結果、保全活動に取り組んだ農地は、前年度に比べて258ha増の41,803haとなりました。
- 今後も、活動組織が行う農地や水利施設の保全活動を支援し、農業・農村がもつ多面的機能の維持・増進を推進します。



遊休農地を活用したコスモス畑



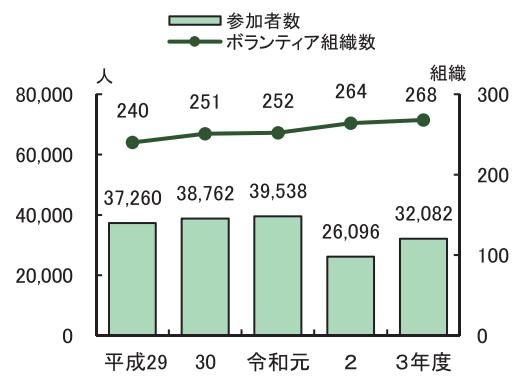
資料：農山漁村振興課調べ

### (森林づくり活動に県民 3.2 万人が参加)

- 県では、森林を県民共有の財産として守り育て、未来に引き継ぐため、福岡県森林環境税を活用した森林づくり活動を支援しています。
- 令和3年度は、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底した上で、植樹イベントの開催のほか、森林ボランティア団体が企画・実行する森林づくり活動が行われ、前年度に比べて5,986人多い32,082人の参加がありました。また、ボランティア組織数は、前年度に比べ4組織増加し、268組織となりました。
- 今後も、森林を守り育てる気運の向上に向け、県民参加の森林づくりを推進していきます。



森林ボランティア団体による  
植樹活動



森林づくり活動参加者数と  
森林ボランティア組織数

資料：林業振興課調べ

## (次代を担う子どもたちが森林の大切さを学ぶ)

- ・県では、子どもたちの森林への関心を高め、その働きや大切さについて理解を深めてもらうため、福岡県森林環境税を活用して、県内小学校へ森林環境教育の講師派遣を行っています。
- ・令和3年度は、17校の小学校に延べ107人の講師を派遣し、883人の子どもたちが樹木観察や木工クラフトによる体験活動を通じて、森林の働きや大切さを学びました。
- ・今後も、次代を担う子どもたちに、森林の働きや重要性を伝える取組を推進していきます。



小学生の樹木観察

## (県森林環境税を活用した森林整備で健全な森林づくりを推進)

- ・県では、森林の荒廃を未然に防止し、土砂災害の防止や水源のかん養といった公益的機能を持続的に発揮させるため、福岡県森林環境税を活用した森林整備に取り組んでいます。
- ・令和3年度は、自然林<sup>※1</sup>への誘導を目的とした強度間伐<sup>※2</sup>1,581ha、広葉樹植栽14.6ha等を実施し、整備面積は、1,599haとなりました。
- ・今後も、公益的機能を発揮できる健全な森林を次世代に引き継いでいくため、取組を推進していきます。

※1 自然林：人為による管理をほとんど必要とせずに公益的機能が発揮できる森林。

※2 強度間伐：間伐率を通常より高く設定した間伐のこと。間伐率は、災害を誘発する事がないよう、一律ではなく現地に応じて適切に設定している。



強度間伐後の林内

### 強度間伐の実施面積

単位:ha

区分	平成30	令和元	2	3年度	計
森林整備	1,114	1,482	1,554	1,599	5,749
うち 強度間伐	850	1,396	1,451	1,581	5,277

※森林整備には、間伐、広葉樹植栽を含む。

資料：林業振興課調査

## (市町村に譲与された森林環境譲与税の活用を促進)

- ・県では、森林環境譲与税※を活用した森林整備を推進するため、森林整備を実施する市町村への支援を行っています。
- ・令和3年度は、市町村職員を対象に研修会を開催したほか、県に譲与された森林環境譲与税を活用して、技術的な助言を行うアドバイザーを市町村に派遣し、森林の集約化や整備の事業化を支援しました。
- ・今後も、市町村へのきめ細かな指導・助言を通じて、森林環境譲与税を効果的に活用した森林整備の推進を図っていきます。

※森林環境譲与税：国の温室効果ガス排出目標の達成や災害防止を図る目的で、地方公共団体が行う森林整備や関連事業の推進に必要な地方財源として、令和元年度に国が創設。



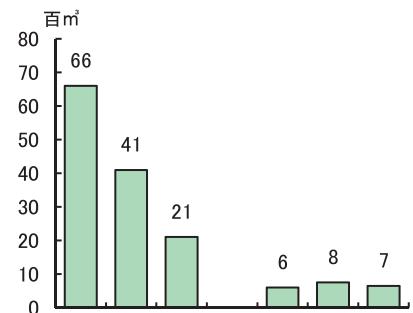
市町村職員を対象とした研修会

## (関係機関と連携して松くい虫被害防止対策を推進)

- ・海岸の松林が有する「潮風・飛砂から人家や農地を守る」といった重要な機能を維持するため、県では市町が実施する松くい虫被害<sup>ひさ</sup>※<sup>1</sup>の防除対策※<sup>2</sup>や地域住民による松林保全活動を支援しています。
- ・また、国や県、市町、関係団体で構成する連絡協議会において、関係機関が一体となって、松くい虫防除対策に関する情報共有や薬剤散布時期の調整を行うとともに、合同現地研修会を実施し、松林の保全と再生に取り組んでいます。
- ・この結果、令和3年度の民有林の松くい虫被害量は650 m<sup>3</sup>となり、近年のピークである平成24年度(6,625 m<sup>3</sup>)の約10%まで減少しました。今後も、海岸松林の保全に向け、松くい虫対策に取り組んでいきます。

※1 松くい虫被害：マツノザイセンチュウという体長1mm未満の線虫が原因。マツノマダラカミキリが健康な松に媒介することによって被害が発生。

※2 防除対策：薬剤散布や樹幹注入による「予防対策」と、被害木を伐倒処理する「駆除対策」がある。



松くい虫の被害 (民有林)

資料：林業振興課調べ



ラジコンヘリによる薬剤散布

## (市町村と連携し、放置竹林対策を促進)

- ・県では、放置竹林の拡大を防ぐため、市町村や森林組合が行う現地調査や森林所有者への意向調査に加え、他の樹種への植替や人工林へ侵入した竹の伐採を支援しています。また、県内の竹林が多い市町村との連絡会議において、森林環境譲与税を活用した竹林整備や、竹材の利用事例の情報共有を行っています。
- ・令和3年度は、放置された竹林の伐採が52ha、人工林への侵入竹の伐採が176haで実施されるとともに、連絡会議の構成員数は1町増加し21市町になりました。
- ・今後も、放置竹林の解消に向け、市町村との連携を強化して取り組んでいきます。

区分	事業名	竹林対策の面積				
		平成29	30	令和元	2	3年度
放置竹林	造林事業	8	3	2	1	4
	治山事業	3	1	1	1	1
	特用林産基盤整備事業	1	1	2	2	—
	森林・山村多面的機能発揮対策事業	40	43	44	35	47
侵入竹	小計	52	48	49	40	52
	治山事業	49	35	30	13	4
	荒廃森林再生事業 (森林環境税)	109	53	110	114	153
	森林・山村多面的機能発揮対策事業	15	15	23	19	18
	小計	172	103	162	147	176
		計	224	152	212	187
					227	

資料：林業振興課、農山漁村振興課調べ



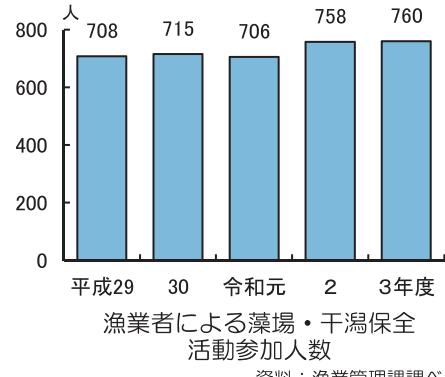
(伐採前) (伐採後)

人工林に侵入した竹の伐採

## (漁業者による藻場・干潟保全を推進)

- ・藻場や干潟は、漁場としてだけではなく、多種多様な水生生物の産卵場や育成場、水質・底質の浄化など重要な役割を担っていることから、県では、藻場や干潟の保全のため、漁業者グループが実施する活動への支援や技術指導を行っています。
- ・令和3年度は、23グループ、760人が参加し、藻場では海藻を食害するウニ類の駆除や母藻の投入、干潟ではアサリの移植や海底耕うん<sup>\*</sup>といった取組が実施されました。
- ・今後も、このような漁業者グループの活動を支援し、藻場・干潟の保全を図っていきます。

\*海底耕うん：海に器具を投入して船で引っ張り、海底を耕す作業。硬くなった土や泥・砂を掘り起こすことで、海底の環境が改善され、生物が生息しやすい環境となる。



藻場におけるウニ類の駆除作業

### (「ふくおかエコ農産物」のPRで持続可能な農業を推進)

- ・県では、環境負荷の低減に配慮した環境保全型農業を推進しています。
- ・令和3年度は、「ふくおかエコ農産物販売拡大協議会」と連携し、野菜ソムリエによるランチセミナーで、ベビーリーフやねぎといった「ふくおかエコ農産物」を使った料理の紹介や試食により、その魅力をPRしました。
- ・また、福岡県だよりのプレゼントキャンペーンに、「ふくおかエコ農産物」のシャインマスカットや八女茶を提供し、広く県民にPRしました。
- ・今後も、消費者へのPRを行うとともに、環境と調和した持続可能な農業生産を進めています。

※ふくおかエコ農産物販売拡大協議会：

化学肥料、農薬を県基準の5割以下で栽培する「ふくおかエコ農産物」の認証生産者で構成し、エコ農産物のPR及び販売拡大を目的とする協議会。



エコ農産物を活用したランチ

### (ブラックバスのキャッチ・アンド・イートを推進)

- ・ブラックバスは北米原産の外来種で、フナやオイカワといった在来種を捕食し、内水面漁業<sup>※1</sup>経営に影響を与えています。また、釣られたバスはその場で再放流されることが多く、数を減らせないことが課題です。
- ・このため、県では、白身で美味というバスの特長をいかし、釣ったものを食べて減らす「キャッチ・アンド・イート」の取組を推進しており、令和3年度は、料理専門家の監修のもと作成した調理レシピ集をウェブサイト「じざかなび福岡」<sup>※2</sup>に掲載しました。
- ・今後も、内水面漁業の資源を維持するため、キャッチ・アンド・イートの取組を推進していきます。

※1 内水面漁業：河川、池、湖、沼における漁業。

※2 「じざかなび福岡」URL：  
<https://jizakanavi-fukuoka.jp/>



オオクチバス（ブラックバス）

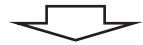


ブラックバスのチリソース和え

### (3) 防災・減災対策を強化

#### (クリークの先行排水の広域化で治水の取組を推進)

- ・県では、筑後川下流域における豪雨時の湛水被害の軽減を図るため、大雨が予報される際、あらかじめクリークの水位を下げて雨水の受け皿を確保する先行排水の取組の広域化を推進しています。
- ・先行排水は、湛水時間の短縮効果が確認されているものの、少雨の場合、水位回復に時間を使うことが課題です。
- ・そのため、県では、令和3年度に水位の回復時間の短縮に向けた水門操作の実証を行い、その効果を確認するとともに、水門操作を含めた、効率的な水位回復のルールを関係市町と共有しました。
- ・今後も、クリークを活用した広域的な先行排水の取組を推進し、筑後川下流域の湛水被害の軽減を図っていきます。



クリークを活用した先行排水の実施状況  
(上段：実施前、下段：実施後)

#### (治山対策・森林整備により森林の防災機能を強化)

- ・県では、山地災害から県民の生命・財産を守るとともに、流域全体で水害を軽減させる流域治水の取組の一環として治山対策・森林整備を進めています。
- ・令和3年度は、土石流を捕捉するスリットダムをはじめとした治山ダムを76基整備したほか、斜面の浸食・崩壊の拡大を防ぐ山腹工※を30か所、森林の洪水緩和機能等の発揮のため、間伐等の森林整備を2,923ha実施しました。
- ・今後も、計画的な森林整備・治山対策を通じて、山地災害の未然防止に努めます。



整備された治山ダム（朝倉市）

#### (ハウスの移転・排水対策により防災減災を推進)

- ・県では、大雨被害が頻発する筑後川水系及び矢部川水系の流域において、農業被害を減少させる取組を支援しています。
- ・令和3年度は、久留米市をはじめ4市18か所のハウスについて、移転及び浸水防止壁や排水ポンプの設置を支援しました。
- ・今後も、湛水リスクが高いと見込まれる地域において、農業被害に対する防災・減災対策を推進していきます。



排水ポンプと浸水防止壁による対策

## (ため池の利用実態を把握し、適正な管理を推進)

- ・ため池は、水源に乏しい地域で農業用水を確保することを目的に古くから利用されていますが、一部では、農地の宅地化といった土地利用の変化により、利用されなくなったため池もあります。
- ・県では、農業用として利用実態のないため池については、十分な管理が行き届かない恐れがあることから、所有者や管理者に、ため池の廃止を含めた適正な管理について助言・指導を実施しています。
- ・令和3年度は、朝倉市や大任町の3か所において、<sup>ていいたい</sup>堤体<sup>ひもん</sup>を開削し、貯留機能を喪失させる廃止工事を支援しました。
- ・今後も、ため池の利用実態の把握に努め、適正な管理や保全を推進します。

※堤体：川や谷を横断し土を盛り立てて造られた構造物。



堤体を開削したため池（大任町）

## (農業水利施設や治山施設、漁港施設の計画的な整備で防災機能を強化)

- ・近年、集中豪雨をはじめ、頻発化する気象災害によるリスクを低減していくためには、排水ポンプや排水樋門といった農業水利施設や治山施設、漁港施設の機能を維持していくことが重要です。
- ・このため県では、これら施設の点検・診断を行い、長期的に施設の機能を維持するための機能保全計画の策定を進めており、令和3年度までに、すべての施設において計画を策定しました。
- ・また、既に機能保全計画を策定した施設では、補修や改築といった整備の推進を図っており、3年度は、52施設で対策工事を実施し、うち7施設で完了しました。
- ・今後も、機能保全計画に基づき、各施設の対策工事を計画的に実施し、防災機能の維持・強化を図っていきます。

機能保全計画の策定状況（累計）

	平成29	30	令和元	2	3年度
農業水利施設 (429か所)	(91%) 391	(93%) 398	(99%) 424	(99%) 425	(100%) 429
治山施設 (9,061か所)	(88%) 7,951	(92%) 8,314	(96%) 8,666	(100%) 9,061	(100%) 9,061
漁港施設 (64漁港)	(86%) 55	(98%) 63	(98%) 63	(100%) 64	(100%) 64
(9,554)	(88%) 8,397	(92%) 8,775	(96%) 9,153	(100%) 9,550	(100%) 9,554
合計					

資料：農山漁村振興課、農村森林整備課、  
水産振興課調べ

## (大雨被害による有明海のゴミ清掃活動を漁協や関係機関と連携して実施)

- ・令和3年8月の大霖により、河川からゴミや流木が有明海に流入し、9月から始まるノリの支柱建て作業への影響が危惧されました。
- ・そこで県では、9月8日に、国や市、福岡有明海漁連と連携し、漁場に漂流するゴミや流木の一斉清掃を行いました。
- ・この一斉清掃には、国土交通省の観測兼清掃船や県有明海研究所の所属船、漁船約70隻が参加し、流木を含む合計175tのゴミを回収しました。
- ・これらの取組により、平年通り10月下旬にノリの種付け作業を行うことができました。



国土交通省の観測兼清掃船に  
流木を積み込む漁船



回収したゴミや流木を運搬する漁船

### トピック

#### ○ コロナや大雨の影響を受けた農業者の経営安定を支援

- ・県では、長引くコロナ禍の影響による農産物の需要の減少や、大雨によるほ場の浸水・冠水により収益が減少した園芸農家に対し、次期作に必要となる種苗や資材の購入経費に対する助成を行いました。
- ・また、青色申告を行っている農業者を対象に、あらゆるリスクによる収入の減少を補てんする収入保険への加入を推進した結果、加入件数は令和4年3月時点で3,255件に拡大しました。
- ・今後も、園芸農家の経営安定が図られるよう、継続して支援していきます。



冠水により出荷不能となった  
こまつな

## ○ 令和3年度に表彰行事で受賞された方々

### 農業

全国・県域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
全国	令和3年度農事功績表彰	農事功績者 緑白綬有功章	八女市	中園 英治
	令和3年度全国優良経営体表彰	働き方改革部門 全国担い手育成総合支援協議会会長賞	田川市	有限会社 グロウテック
	令和3年度農山漁村女性活躍表彰	若手女性チャレンジ部門 農林水産大臣賞	久留米市	宇佐川 美奈
	令和3年度全国麦作共励会	農家の部 農林水産大臣賞	鞍手町	株式会社 あいば農園
	令和3年度全国豆類経営改善共励会	大豆集団の部 農林水産省農産局長賞	みやこ町	農事組合法人 上久保營農組合
	第75回全国茶品評会	玉露の部 農林水産省農産局長賞	八女市	月足 靖彦
	第75回全国茶品評会	玉露の部 農林水産省農産局長賞	八女市	山口 孝臣
県域	令和3年度福岡県麦作共励会	農家の部 福岡県知事賞	遠賀町	石松 守
	令和3年度福岡県麦作共励会	農家の部 福岡県知事賞	宗像市	山田 堅
	令和3年度福岡県麦作共励会	集団の部 福岡県知事賞	久留米市	農事組合法人 城島北部
	令和3年度福岡県麦作共励会	集団の部 福岡県知事賞	香春町	農事組合法人 かわら夢ファーム
	令和3年度福岡県花き品評会	産物の部 農林水産大臣賞	福岡市	波左間 健
	令和3年度福岡県花き品評会	技術・ほ場の部 農林水産大臣賞	八女市	末石 敏
	令和3年度福岡県果樹苗ほ品評会	農林水産大臣賞	久留米市	栗木 大陽
	令和3年度福岡県茶業共進会	玉露の部 農林水産大臣賞	八女市	城 昌雄
	令和3年度福岡県茶業共進会	煎茶の部 農林水産大臣賞	八女市	樋口 龍也
	令和3年度福岡県茶業共進会	玉露園の部 農林水産大臣賞	八女市	山下 蓮太郎
	令和3年度福岡県茶業共進会	煎茶園の部 農林水産大臣賞	八女市	秋山 礼史郎
	第57回福岡県肉畜共進会	和牛の部 農林水産省生産局長賞・福岡県知事賞	筑紫野市	有限会社 三宅牧場
	第57回福岡県肉畜共進会	国産牛の部 福岡県知事賞	久山町	中尾 憲二
	第57回福岡県肉畜共進会	肉豚の部 農林水産大臣賞・福岡県知事賞	赤村	船原 務
	令和3年度福岡県6次化商品コンクール	福岡県知事賞	柳川市	柳川農業協同組合
	令和3年度福岡県6次化商品コンクール	福岡県知事賞	北九州市	株式会社 芳野商店
	福岡県農林業団体等労働者表彰	福岡県知事賞	大川市	添島 喜久
	福岡県農林業団体等労働者表彰	福岡県知事賞	直方市	堀 勝彦
	ふくおか農林漁業応援団体表彰	福岡県知事賞	福岡市	株式会社エフエム福岡

全国・県域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
県域	第57回「JA共済」小・中学生作文コンクール個人賞の部 小学1年生	福岡県知事賞	福岡市	福岡雙葉小学校 なりた さあや
	第57回「JA共済」小・中学生作文コンクール個人賞の部 小学2年生	福岡県知事賞	北九州市	明治学園小学校 川ばた そうや
	第57回「JA共済」小・中学生作文コンクール個人賞の部 小学3年生	福岡県知事賞	福岡市	福岡雙葉小学校 坂本 美玲
	第57回「JA共済」小・中学生作文コンクール個人賞の部 小学4年生	福岡県知事賞	福岡市	福岡雙葉小学校 田中 心望
	第57回「JA共済」小・中学生作文コンクール個人賞の部 小学5年生	福岡県知事賞	福岡市	福岡雙葉小学校 齋藤 奎音
	第57回「JA共済」小・中学生作文コンクール個人賞の部 小学6年生	福岡県知事賞	北九州市	足立小学校 小田 孝太朗
	第57回「JA共済」小・中学生作文コンクール個人賞の部 中学1年生	福岡県知事賞	宗像市	自由ヶ丘中学校 伊賀崎 望
	第57回「JA共済」小・中学生作文コンクール個人賞の部 中学2年生	福岡県知事賞	福岡市	中村学園三陽中学校 香取 英次朗
	第57回「JA共済」小・中学生作文コンクール個人賞の部 中学3年生	福岡県知事賞	久留米市	田主丸中学校 山岡 由愛
	第57回「JA共済」小・中学生作文コンクール学校賞の部 小学校	福岡県知事賞	福岡市	福岡雙葉小学校
	第57回「JA共済」小・中学生作文コンクール学校賞の部 中学校	福岡県知事賞	北九州市	熊西中学校

## 林業

全国・県域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
全国	第 46 回全国児童・生徒木工工作コンクール	日本木材青壮年団体連合会 会長賞	北九州市	北九州市立八児小学校 4年 福本 渉真
	第 46 回全国児童・生徒木工工作コンクール	日本木材青壮年団体連合会 木育創造委員長賞	北九州市	北九州市立熊西小学校 5年 麻生 蓮
	令和 2 年度全国山林苗畑品評会	林野庁長官賞	久留米市	田代 耕一郎
	令和 3 年度山林種苗等生産事業功労者	林野庁長官賞	朝倉市	栗原 渉
	令和 3 年度山林種苗等生産事業功労者	全苗連会長賞	久留米市	田中 雅信
	第 44 回林道維持管理コンクール	林野庁長官賞	朝倉市	朝倉市
県域	第 46 回福岡県竹林品評会	農林水産大臣賞	八女市	石田 清教
	第 52 回福岡県椎茸品評会	乾椎茸の部 農林水産大臣賞	八女市	井上 静子
	第 52 回福岡県椎茸品評会	生椎茸の部 農林水産大臣賞	八女市	松延 幸子
	令和 3 年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	農林水産大臣賞	久留米市	上野 恒一
	令和 3 年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	農林水産省生産局長賞	久留米市	二又 朋則
	令和 3 年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	福岡県知事賞	久留米市	古賀 仁
	令和 3 年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	福岡県知事賞	朝倉市	行徳 繁満
	令和 3 年度福岡県緑化樹芸木ほ場品評会	福岡県知事賞	朝倉市	小島 康文
	第 40 回福岡県椎茸ほだ場コンクール	福岡県知事賞	八女市	竹下 逸夫
	第 72 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	東峰村	宝珠山百年の森づくり実行委員会
	第 72 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	東峰村	里山保全の会東峰村フラワーズ
	第 72 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	福岡市	農林中央金庫福岡支店
	第 72 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	嘉麻市	加納 恵子
	第 72 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	芦屋町	吉岡 学
	第 72 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県植樹祭実行委員長賞	小郡市	立石小学校緑の少年団
	第 72 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県植樹祭実行委員長賞	豊前市	木村 多聞
	第 72 回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県植樹祭実行委員長賞	大木町	木佐木小学校緑の少年団
	令和 3 年度水源の森ポスター原画コンクール	福岡県知事賞（小学校の部）	行橋市	大内 海采
	令和 3 年度水源の森ポスター原画コンクール	福岡県知事賞（中学校の部）	宗像市	藤又 千遥

全国・県域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
県域	第 46 回福岡県児童・生徒木工工作コンクール	小学校低学年部門 福岡県知事賞	北九州市	北九州市立熊西小学校 2年 麻生 潤
	第 46 回福岡県児童・生徒木工工作コンクール	小学校高学年部門 福岡県知事賞	北九州市	北九州市立八枝小学校 5年 久重路 紗羽
	第 8 回福岡県木造・木質化建築賞	木造の部 大賞	うきは市	株式会社 Kotori works 事務所
	第 8 回福岡県木造・木質化建築賞	木質化の部 大賞	久留米市	幼稚園型認定こども園 おひさま くるめようちえん
	第 8 回福岡県木造・木質化建築賞	木造の部 優秀賞	八女市	奥八女焚火の森 キャンプフィールド
	第 8 回福岡県木造・木質化建築賞	木造の部 優秀賞	福津市	虹の森保育園
	第 8 回福岡県木造・木質化建築賞	木質化の部 優秀賞	行橋市	さくさくファーム
	第 8 回福岡県木造・木質化建築賞	木質化の部 優秀賞	北九州市	方眼の間
	第 8 回福岡県木造・木質化建築賞	特別賞	那珂川市	筑紫工業 新社屋
	第 8 回福岡県木造・木質化建築賞	特別賞	東峰村	古民家ヴィラ あんたげ
	令和 3 年度福岡県青少年健全育成対策 推進本部長顕彰	福岡県知事表彰	小郡市	立石小学校緑の少年団
	第 31 回世界子ども愛樹祭コンクール	詩・作文の部 みどりの賞福岡県知事賞	八女市	野中 夏羽
	第 31 回世界子ども愛樹祭コンクール	絵画の部 みどりの賞福岡県知事賞	兵庫県 明石市	坂口 音羽

## 水産業

全国・県域の別	表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
全国	第 27 回全国青年・女性漁業者交流大会	農林水産大臣賞	北九州市	豊前海北部漁業協同組合恒見支所 青壯年部
	第 52 回全日本総合錦鯉品評会	福岡県知事賞	北九州市	田中 龍平
県域	令和 3 年度福岡有明のりブランド推進品評会	福岡県知事賞	柳川市	石橋 政典